

平成 24 年度 木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業
「木のまち・木のいえづくり」を目指す若者のための
教育プログラムの構築
報告書

平成 25 年 2 月
一般社団法人 日本木材学会

木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業
「木のまち・木のいえづくり」を目指す若者のための教育プログラムの構築
報告書

目次

はじめに

1. プログラム概要	5
2. 地域セミナー実施結果	
2.1 東北セミナー	7
2.2 北陸セミナー	13
2.3 東海セミナー	18
2.4 九州セミナー	25
3. アンケート集計結果	32
4. 3年間の総括と木質構造教育プログラムの構築について	41

Appendix

(1) 委員会議事録	59
(2) 関連発表資料	65
(3) セミナー資料（東北・秋田）	71
(4) セミナー資料（北陸・富山）	95
(5) セミナー資料（東海・名古屋）	125
(6) セミナー資料（九州・鹿児島）	183

はじめに

この報告書は、一般社団法人日本木材学会が 2012 年度「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」に応募し、採択された「木のまち・木のいえづくりを目指す若者のための教育プログラムの構築」に関する成果をとりまとめたものである。

本事業は「公共建築物の木造化」などの政策が推進されているなか、木造建築に必要とされる品質性能等のニーズを的確に判断できる技術者の育成もほとんど行われていない現状に鑑み、2010 年度に木材学会において木質構造教育に関わる有志によるグループを結成、林野庁・国土交通連携プロジェクト「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」に応募、採択され、3 年間継続して行ってきたものである。

ここでは各地域の気候風土、文化および材料事情を認識するとともに、森林・木材・建築のそれぞれの領域全体に対する基本的な知識と情報を持ち、最近の社会に氾濫するさまざまな木材関連情報を仕分ける判断力を持った人材の育成を目指し、とくに、大学等で木造住宅・建築を学ぶ学生を対象とした教育プログラムを東北・北陸・東海・九州の 4 地域で複数の大学に所属する学生の参加によって、試行的に実施してきた。

以上の取り組みによって、今後の展開に対し基盤となる成果が得られたものと考えらる。

計画の実行に当たり、多くの示唆を頂いた、本事業アドバイザーである加来照彦氏および担い手事務局の各位に厚くお礼申し上げます。

平成 25 年 2 月

一般社団法人日本木材学会

会 長 服部 順昭

担当幹事 飯島 泰男

井上 正文

板垣 直行

五十田 博

山崎真理子

青木 謙治

平成 24 年度「木のまち・木のいえづくり」を目指す若者のための教育プログラムの構築委員会メンバーリスト（セミナー講師・オブザーバーも含む）

【アドバイザー】

加来照彦 株式会社現代計画研究所

【幹事】

青木謙治 独立行政法人森林総合研究所
飯島泰男 秋田県立大学木材高度加工研究所
五十田博 信州大学
板垣直行 秋田県立大学
井上正文 大分大学
山崎真理子 名古屋大学

【事務局】

土屋 潤 福岡大学
藤嶋 楽 秋田県立大学木材高度加工研究所

網野禎昭 法政大学
荒木建一朗 熊本県立大学
今田太一郎 岐阜工業高等専門学校
延藤安弘 愛知産業大学
小野 泰 ものづくり大学
鎌田貴久 秋田県立大学木材高度加工研究所
北原昭男 熊本県立大学
腰原幹雄 東京大学
後藤正美 金沢工業大学
小原勝彦 岐阜県立森林文化アカデミー
小林研治 静岡大学
佐々木康寿 名古屋大学
佐々木幸久 山佐木材
佐々木貴信 秋田県立大学木材高度加工研究所
塩屋晋一 鹿児島大学
末廣香織 九州大学
田中 圭 大分大学
田端千夏子 三重大学
辻 充孝 岐阜県立森林文化アカデミー
中村 昇 秋田県立大学木材高度加工研究所
夏目欣昇 名古屋工業大学
芳賀沼整 はりゅうウッドスタジオ主宰
長谷見雄二 早稲田大学
秦 正徳 富山大学
林 知行 森林総合研究所
原田浩司 山佐木材
藤本登留 九州大学
古川忠稔 名古屋大学
堀江秀夫 富山大学
村山顕人 名古屋大学
山田容三 名古屋大学
吉田彌明 静岡大学名誉教授

1. プログラム概要

1.1 事業概要

1.1.1 担い手像とその育成手法

1)基本的認識

「今後の木造に対する社会的ニーズに応じていくためには、各地域の気候風土、文化及び材料事情を認識し、森林・木材・建築それぞれに対する基本的知識と情報を持ち、様々な木材関連情報を仕分ける判断力がある担い手が求められている」との認識から、これからの担い手の主要な対象である大学等で木造住宅・建築や森林・木材系の学生を対象とした教育プログラムの構築を目指す。

2)育成方法

このなかで、工学部・農学部にまたがる大学間連携による木造・木材教育効果およびそれを教えられる教員の養成や教員間のコラボレーション効果の検証をする。また、とくに専門知識を持たない教員が木造建築の授業を担当している大学への推奨シラバス（案）と授業用資料の作成を行う。

3)理解度の確認方法

本事業は個別の知識習得を目的とした内容ではないため、受講者の理解度を直接評価するのは難しいが、これまでも受講者からのアンケートを教材の共通化に向けた情報収集の意味も含めて収集しており、これによって各地域で行った講義、演習内容が適切であったかどうかを吟味することができる。

1.1.2 今年度実施内容の概要

1)今年度の計画

昨年度、東北・北陸・東海・九州の4地区での実施セミナーは、学生のみならず、これに参加した教員・実務家の全てにおいて非常に好評であり、今後の継続的な開催を強く望まれていた。

今年度はこれまでの経験を踏まえて、昨年度の参加者から好評であった学生のプレゼンテーション・グループ討議等を積極的に取り入れ、より教育効果の高いセミナーを試行した。

一方、担い手育成拠点整備事業にとりくんだ他のグループとの連携の模索を進めながら、これまでの事業でつちかった情報の公開と共有の具体的な取組を行った。

2)開催地域等

開催地域は昨年度実施と同じ4地域とした。当初、中国地方での開催も検討したが、予算的事情から不可能と考え、やむなく断念した。

各地域での取り組みの状況は第2章で個別に報告する。また第4章で3年間の成果を総括的に述べるが、その概要は以下のとおりである。

●東北セミナー（幹事：板垣直行・秋田県大准教授）

日程：2012/8/23～27、場所：秋田県仙北市ほか

参加者：八戸工大、日本大、秋田県立大、建築系学生 54 名

角館木匠塾のサマースクールの一環

●北陸セミナー（幹事：五十田博・信州大教授）

日程：2013/1/11～12、場所：富山市ほか

参加者：信州大、金沢工大、富山大、建築系学生 8 名ほか

●東海セミナー（幹事：山崎真理子・名古屋大准教授）

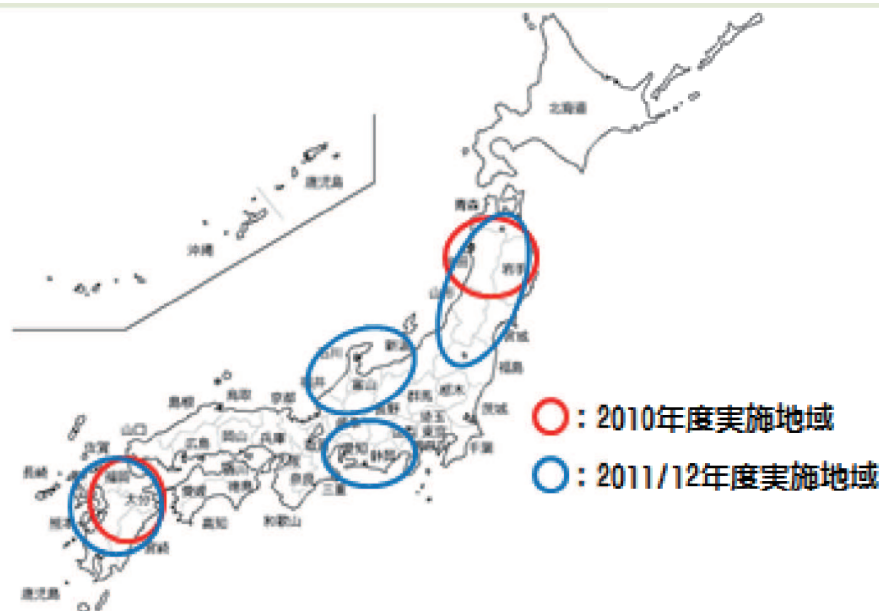
日程：2012/9/16～18 および 11/10～11、場所：名古屋市長者町ほか

参加者：名古屋大、三重大、岐阜高専、名古屋工大、静岡大、九州大、建築系学生 29 名、林産系学生 10 名ほか

●九州セミナー（幹事：井上正文・大分大教授）

日程：2013/1/12～13、場所：鹿児島県肝属郡肝付町

参加者：九州大、熊本県立大、大分大、鹿児島大、名古屋大、建築系学生 24 名、林産系学生 5 名



3)組織構成

組織構成は以下のとおりである。

飯島泰男（総括・秋田県立大）、板垣直行（東北・秋田県大）、山崎真理子（東海・名古屋大）、五十田博（北陸・信州大）、井上正文（九州・大分大）、青木謙治（教育プロ・森林総研）

2. 地域セミナー実施結果

2.1 東北セミナー

■実施概要と総括

本年度も東北地区セミナーは、東北地区の建築系学生が行っている活動「角館木匠塾サマースクール」とタイアップして実施した。

本年度の木匠塾の製作活動については、グランドゴルフ場から休憩スペースへ上がるための「階段」を製作することとなった。これに関連して、秋田県立大学木材高度加工研究所・佐々木貴信准教授に、木橋を中心とした木製土木構造物の事例を取上げて頂き、屋外に設置される木製構造物における注意点などを講義頂いた。一方、大工さんには実際の製作作業に付いて頂き、道具の使い方から効率的加工の方法、さらには階段の設置場所の墨だし作業手順について指導頂いた。

一方、今年度はセミナーの方針として地域材の活用、さらには地域材を活用した東日本台震災における復旧・復興の取組みを取上げることとして、佐々木貴信准教授（前出）とはりゅうウッドスタジオ主宰・芳賀沼整氏に講義を頂いた。また、秋田・仙北地域で林業から製材、さらにその土木・建築での施工までを手掛ける有限会社門脇木材を見学させて頂いた。

木匠塾サマースクールの製作作業とのタイアップにより、お互いのプログラムとして相乗効果的に有意義であったと思われる。自分たちの製作にあたり、使用している木材がどのように山から伐り出され、加工され、またどのように地域や環境と関わっているのか、多少なりともイメージできたと思われる。また設計、施工の実務者による指導も、学生のものづくりにおけるモチベーションを高める効果があったと思われた。日中、猛暑の中での製作作業を行った後、夜の講義は厳しかったと思われるが、多くの学生が熱心に話を聞いていた。学生は全て建築分野の学生であったが、その分、他の分野の話は興味深かったようである。

参加者：八戸工業大学、日本大学工学部、秋田県立大学、建築系学生約 50 名（別表の通り）

会 場：花葉館／秋田県仙北市角館町西長野古米沢 30-19 Tel.0187-55-5888

秋田県立大学セミナーハウス／秋田県仙北郡協和町（協和スキー場傍）

■スケジュールと実施状況

●木匠塾サマースクールの全スケジュール

23 日 開塾式、作業説明、スケジュール確認、交流会（バーベキュー）

24 日 製作作業、大工さんによる製作指導、セミナー
25 日 製作作業、大曲花火大会見学
26 日 製作作業、セミナー
27 日 門脇木材見学、製作作業
28 日 製作作業、交流会（打ち上げ）
29 日 閉塾式、成果発表

●8 月 24 日（金） 午後の部／花葉館・ロッジ、晩の部／県立大学セミナーハウス

13:45－14:00 木のまち・木のいえ担い手育成拠点プログラム東北地区セミナーのガイダンス：板垣 直行（秋田県立大学 准教授）

14:00－17:00 木造加工技術の実践：大工さんにより、道具の使い方について解説頂くと共に、今年度の制作物に即した加工作業について指導頂いた。具体的には木のねじれの見つけ方と修正の仕方、のこぎりの使い方、ドリルを使った穴あけの仕方、ノミを使った座彫りの仕方、基礎のやり方等を実践しながら指導頂いた

講師： 野原 誠悦 氏， 高橋 正光 氏（有限会社 篠木建築業）

※県立大セミナーハウスへ移動。入浴・食事。

20:00－21:00 地域の木材の有効活用：木橋をはじめとする様々な地域木材活用の取組を紹介し、地域社会における木材活用の意義について解説頂いた。また、大槌町での復興支援計画について紹介頂いた。

講師： 佐々木 貴信 氏（秋田県立大学木材高度加工研究所 准教授）

21:00－21:30 地域における木材活用に関するディスカッション

●8 月 26 日（日）／県立大学セミナーハウス

20:00－21:00 地域の木材を活用した木造住宅の設計：地域の木材を活用した家づくりを実践されている建築士の方に、事例を紹介頂きつつ、地域材の活用の意義、木の家づくりの注意点を解説頂いた。また、東日本大震災の復旧・復興における地域材を活用した応急仮設住宅などの建設の取組みについて紹介頂いた。

講師： 芳賀沼 整 氏（はりゅうウッドスタジオ 主宰）

21:30－22:30 木造住宅設計に関するディスカッション：

●8 月 27 日（月） 見学／有限会社 門脇木材

9:30－11:00 秋田の林業と木材活用の現状：秋田・仙北地域で林業から製材、さらにその土木・建築での施工までを手掛ける門脇木材さんを見学させて頂き、森林と木材活

用の現状を学んだ。小径木やおが屑など、木材をできる限り有効に活用する取り組みなども紹介頂いた。

2.4 参加者名簿

No.	氏名	所属		講師	学生
1	飯島 泰男	秋田県立大学木材高度加工研究所	教授	○	
2	佐々木 貴信	〃	准教授	○	
3	板垣 直行	秋田県立大学システム科学技術学部	准教授	○	
4	芳賀沼 整	はりゅうウッドスタジオ	主宰	○	
5	高橋 正光	有限会社 篠木建築業		○	
6	野原 誠悦	〃		○	
7	門脇 桂孝	有限会社 門脇木材	社長	○	
8	武藤 剛	〃	営業部長	○	
9	五戸 浩章	八戸工業大学	修士1年		○
10	上遠野 開人	〃	4年		○
11	後藤 忠平	〃	〃		○
12	山口 裕史	〃	〃		○
13	秋山 由衣	〃	〃		○
14	橋場 ともみ	〃	〃		○
15	丸山 舞子	〃	〃		○
16	沢田 篤宏	〃	3年		○
17	濱道 詩織	〃	〃		○
18	仁平 竜太	〃	〃		○
19	飴田 亮太	〃	1年		○
20	扇田 優樹	〃	〃		○
21	相楽 拓巳	日本大学工学部	3年		○
22	佐藤 翔太	〃	〃		○
23	佐藤 直人	〃	〃		○
24	鈴木 成美	〃	〃		○
25	高橋 将	〃	〃		○
26	松本 智歩	〃	〃		○
27	水梨 榛香	〃	〃		○
28	村井 大祐	〃	〃		○
29	村上 祥一	〃	〃		○
30	守岡 優里	〃	〃		○
31	森尾 啓太	〃	〃		○
32	柳谷 諒太	〃	〃		○
33	横田 貴大	〃	〃		○
34	渡辺 潤	〃	〃		○
35	生沼 彩	〃	〃		○
36	大須賀 華美	〃	2年		○
37	高久 和也	〃	1年		○
38	猪狩 潤	〃	〃		○
39	佐々木 美穂	秋田県立大学	3年		○
40	中川 貴博	〃	〃		○
41	服部 雄介	〃	〃		○
42	福田 浩之	〃	〃		○
43	原 尚正	〃	〃		○
44	帆苅 昂太朗	〃	〃		○
45	布谷 優綺	〃	〃		○
46	村上 由香	〃	〃		○
47	和賀 一晟	〃	〃		○
48	神 あゆみ	〃	〃		○
49	宮崎 元基	〃	〃		○
50	向中野 泰行	〃	〃		○
51	桜井 望	〃	〃		○
52	木村 周平	〃	2年		○
53	和賀 剛志	〃	〃		○
54	遠藤 寛崇	〃	〃		○
55	釜田 恵理菜	〃	〃		○
56	田口 陽菜	〃	〃		○
57	田口 寛悟	〃	〃		○
58	大山 智之	〃	1年		○
59	小杉 大和	〃	〃		○
60	佐藤 大樹	〃	〃		○
61	長山 哲也	〃	〃		○
62	南野 広貴	〃	〃		○
			計	8	54



佐々木貴信氏講義の様子



地域における木材活用に関するディスカッションの様子



芳賀沼 整氏講義の様子



門脇木材見学会の様子



大工さん指導と製作物成果

2.2 北陸セミナー

■実施概要

本年度の北陸地区セミナーは、開催地を富山市として実施した。会場は、とやまスローライフ・フィールド「開ヶ丘交流館」「生活館」（富山市開ヶ丘 43・20）および職藝学院（富山市東黒牧 298）である

1 日目の夕方に金沢工業大学、信州大学、そして富山大学の教員 5 名と学生 10 名（OB を含む）が集まり、座学形式で始まった。今回は各大学教員の話題提供に加えて、学生からの現在取り組んでいる研究課題についての発表がなされた。卒業論文の発表練習的なものであるが、限界耐力計算の問題点などに教員を交えて有意義な議論を持てた。北陸地方での研究とはいえ、研究テーマは全国的である。

座学の後、場所を移し、夕食、そして、自己紹介があった。自己紹介とともに、なぜ木材や木造を研究する研究室を選んだか、研究を始める前と始めてからの感想、木造に期待すること、就職を含めた将来のことなども、参加者各人から紹介があった。その後フリーディスカッションとなり、初日は終了した。

2 日目午前は 2 名の講師を迎え、初日と同じく座学形式で実施された。まず森林総合研究所・林知行研究コーディネータから、木材の常識と考えていることに数多くの嘘があることを紹介する「今さら人には聞けない木のはなし」の基調講演がなされた。また、世界最大の木造について概説があるなど、木材の知識ばかりでなく、建築に関する話題も興味深い講義内容であった。ついで、東京大学生産技術研究所・腰原幹雄教授から伝統木造、現代木造、中構想木造、経験と勘による設計、工学的な構造設計による設計などいくつかの軸から木造を分析した「伝統木造と現代木造」と題した基調講演がなされた。それぞれの講義の後でディスカッションを実施したが、時間が十分に取れず、踏み込んだ議論ができなかったのは残念である。

午後には開催場所である「とやまスローライフ・フィールド」を、開発のとりまとめ役である職藝学院・稲葉實理事長の解説のもと見学した。とやまスローライフ・フィールドは、特定非営利活動法人里山倶楽部による里山らしい住生活環境を目指した土地であり、今回の講義の場所であった交流館や食事場所の生活館、そして展望塔を備えた里山観察塔などの施設を持つ。それらの施設やフィールド内のさまざまな木造住宅を見学させていただき、説明を受けた。

その後、車で 30 分ほど離れた職藝学院に場所を移し、学院内の見学並びに職藝学院の学生たちと意見交換した。学院内の見学では実習場所の見学ばかりでなく、学院の 2 年間の行事をスライドで見せていただいた。学院の学生たちは 10 代の参加の学生たちよりも若い人たちから一度就職した後に学院に入学した方や退職後に入学された方など極めて多彩である。フリーディスカッションでは伝統を継続することの重要性や職と学のバ

ランスの必要性などについて議論をした。議論の時間が十分にとれ、双方の学生にとって意義深いものであった。

フリーディスカッションを終え、その場で解散となった。

■スケジュールと実施状況

●1月11日（金） とやまスローライフ・フィールド「開ヶ丘交流館」

1. ガイダンス・プレゼンテーション

- ・ 17:00－17:20 ガイダンス（五十田博：信州大学教授）
- ・ 17:20－17:30 富山の伝統的木造住宅の木材利用と理想循環系（秦正徳：富山大学教授）
- ・ 17:30－17:50 林業の現状（堀江秀夫：富山大学教授）～現在の日本の林業の置かれている現状、木材利用の実態、建築用材としての利用の割合などについて
- ・ 17:50－18:10 太古の時代から培われてきた木造の技術（後藤正美：金沢工業大学教授）～伝統的木造の構造技術からそれを活かした高層木造への展開まで
- ・ 18:10－18:30 木造の限界耐力計算の検証（杉浦輝晃：富山大学学生）～木造建物に限界耐力計算を適用した事例と応答解析との比較について
- ・ 18:30－18:40 ほかの地域でのセミナーなど（五十田博：信州大学教授）～本セミナーの趣旨の解説、並びに今年度は各地でどのようなセミナーが実施されており、学生間でどのような議論の場が持たれているか、そして、昨年度のセミナーとそれらに対する学生のアンケート結果紹介
- ・ 18:40－18:50 木造屋根構面の振動台実験（宮原作太：信州大学学生）
- ・ 18:50－18:55 高山地域に建つ木造住宅実態調査（鈴木智華：金沢工業大学学生）
- ・ 18:55－19:00 徳島杉製材の利活用（岡本有生：金沢工業大学学生）

2. セミナー会場にて夕食 19:15－20:00

3. ディスカッション

- ・ 20:00－21:00 木材・木質構造を始めたきっかけ、木材・木質構造に期待すること。就職のこと

●1月12日（土） とやまスローライフ・フィールド「開ヶ丘交流館」

1. 木材や木造を取り巻く最近の話題

- ・ 9:00－9:10 ガイダンス（五十田博：信州大学教授）
- ・ 9:10－10:15 今さら人には聞けない木のはなし（林知行：森林総合研究所）
- ・ 10:15－11:25 伝統木造と現代木造（腰原幹雄：東京大学生産技術研究所）

2.ディスカッション

・11:25－11:40 木造で実現される建築。木造建築と構造解析についてなどについてディスカッションした。

3.セミナー会場にて昼食

4.とやまスローライフ・フィールド街並み見学 12:30－13:00

稲葉實（職藝学院理事長）にこのフィールドの由来、方針などを概説いただきながら、現代木造、伝統的木造で作られている街並みを見学する。

5.バスにてセミナー会場から職藝学院へ移動 13:00－13:45

6.職藝学院見学並びに職藝学院の学生たちと意見交換会 13:45－16:00

大工と庭師の学校 職藝学院の校舎見学、並びに学生たちの作品や職藝学院の入学から卒業までの生活などを紹介いただく。その後、職藝学院の学生さんたちと職藝学院にはいった理由、今後の木造に期待すること、地震被害の話など自由に意見交換した。

（見学後、参加学生と作り手である職芸学院学生との意見交換会）

7.解散 16:00

■参加者名簿

<学生>

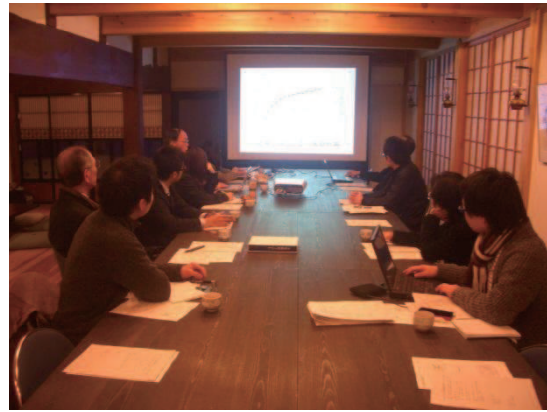
金沢工業大学	鈴木 智華	学部 4 年
	岡本 有生	学部 4 年
信州大学	新井 一弘	修士 1 年
	貴船 達也	修士 1 年
	峯村 廣紀	修士 1 年
	宮原 作太	修士 1 年
	室井 祐弥	修士 1 年
富山大学	山田 幸宏	H22 卒
	鳴海 雄介	H23 卒
	杉浦 輝晃	学部 4 年

<講師>

林知行（森林総合研究所）／腰原幹雄（東京大学生産技術研究所）／五十田博（信州大学教授）／秦正徳（富山大学教授）／堀江秀夫（富山大学教授）／後藤正美（金沢工業大学教授）



スローライフフィールド 生活館



話題提供 秦先生



話題提供 堀江先生



話題提供 後藤先生



学生の研究発表



学生の研究発表



夕食 懇親風景



基調講演 林先生



基調講演 腰原先生



会場 交流館



フィールド内見学



フィールド内の木造建物



職藝学院での説明



職藝学院の庭の実習部分



職藝学院の概要説明



職藝学院でのディスカッション

2.3 東海セミナー

■実施概要と総括

今回のセミナーではテーマを「木材を活用した街づくりの提案 ―計画・意匠・構造・材料系それぞれからのアプローチ―」と設定し、講義に加え、学生は事前に提示した課題の中間報告を行い、それに対する指導を行うこととした。学生課題は「都心部での木材利用」であるが、具体的に実際の現場と地域住民の要望を設定した。課題の取り組み期間は約3か月である。

このプログラムにより、①木材利用および木造建築について、建築構造、計画、環境および林産学の各専門分野から指導を行い、多角的・総合的な視点を養う、②地域住民に模擬的に施主として見立て「提案」「改善要求」「再提案」のやり取りを行うことで、建築設計のプロセスを経験することを目的とした。

課題対象地域は名古屋市中区錦二丁目（長者町：名古屋市の中心部にある商業地域で、繊維問屋街）であり、課題は、錦二丁目まちづくり連絡協議会・都市の木質化部会から提示されたもので、長者町における木材利用（木質構造物、木装化）である。実現化の要望が高い内容を課題として設定しているため、提案内容の実現性や採算性についても検討することを求められた。内容はタウン誌にも報道された。

以上の「事前準備→セミナー本番→事後まとめ」の一連の活動により、一過性&受身的なセミナーから、能動的&濃密なセミナーとなり、学生に対してセミナー内容をより強く印象付けることができた。また、特に木材を専門としていない建築学科の学生が参加。彼らの木材への興味を高めることができ、具体的な現場を想定した設計課題を出したことにより、学生はイメージが持ちやすくなり、事前準備に対して一歩踏み込んだ取り組みが可能となった。

セミナー内で2回のプレゼンテーションを行い、1回目のプレゼンテーションで受けた指導内容を踏まえた改善作業を求めた。とくに林産系、建築系学生の事前準備で交流のあったグループでは、研究でも学生間の意見交換が見られ、より大きな教育効果がうかがえた。この点は、今後の重要なポイントとなり得る。

開催場所：愛知県名古屋市および豊田市



■内容

●9月16日（日）事前エクスカーション（希望者のみ）

豊田市足助地区にて、人工林、間伐作業、丸太市場、製材所を見学しながら、森林や木材についての理解を深めつつ、大学間、実務家の方とも交流を深める。

8：45 出発

10：00 豊田森林組合足助支所（挨拶：森林組合代表理事専務 林富造氏）

11：00 怒田沢県有林、人工林管理および間伐施業の説明、見学、丸太運搬

13：30 豊田森林組合木材センター見学および丸太価格当てゲーム

15：00 豊田森林組合豊田支所製材見学、丸太や製材の非破壊検査の体験、木材材質解説など

21：00 解散

●9月17日（月祝）名大・野依学術記念会会館/長者町

9：00 開会・趣旨説明

9：15 1限目（講義45分＋質問15分）森林資源の現状（名古屋大山田先生）

10：20 2限目（講義60分＋質問10分）木材・構造関係教員でリレー講義

11：30 学生プレゼンテーション（プレゼン10分＋質問5分）×4グループ

13：30 学生プレゼンテーション（プレゼン10分＋質問5分）×4グループ

14：45 長者町見学へ移動（地下鉄利用）

15：20 現地到着・長者町見学

●9月18日（火）名大・野依学術記念会会館

8：30 受付開始/前日の内容を踏まえて、大学ごとにプレゼン内容の修正 time (1.5hr)

10：00 3限目（講義45分＋質問15分）末廣先生

11：00 4限目（講義45分＋質問15分）網野先生

13：00 「都市の木質化」に対する長者町の想い（長者町の方）

13：15 学生プレゼンテーション（プレゼン10分＋質問5分）×8グループ

15：35 長者町の住民の方を各グループに交えて、意見交換（30分）

16：00 改訂方針の発表 24分＝3分×8グループ

16：30 講評・セミナーのまとめ

17：00 終了

●11月10日（土）～11日（日） 名古屋市長者町「ゑびす祭り」にブースを借りて、プレゼン内容の発表・展示

■参加者

●講師／セミナースタッフ（17）

秋田県立大学 飯島泰男／大分大学工学部 井上正文／法政大学デザイン工学部 網野禎昭／九州大学人間環境学研究院 末廣香織／静岡大学農学部名誉教授 吉田彌明／名古屋大学大学院生命農学研究科 佐々木康寿・山崎真理子・山田容三／名古屋大学大学院環境学研究科 古川忠稔・村山顕人／三重大学大学院工学研究科 田端千夏子／名古屋工業大学 夏目欣昇／岐阜工業高等専門学校建築学科 今田太一郎／愛知産業大学造形学部 延藤 安弘／岐阜森林文化アカデミー 小原勝彦・辻 充孝／静岡大学農学部 小林研治

●実務（18）

再生空間 大橋俊夫／寛建築設計 寛 清澄／スタジオ仙人塚 片岡 保／対話計画 藤森幹人／名大 URA 吉田千穂／なな喜建築設計室 久野奈穂子／ひまわり建築工房 池田孝生／錦二丁目まちづくり連絡協議会 滝 一之・米津文彦・高木健吾・河崎泰了・吉田俊雄・吉田こうじ・田中敬之・ふなはしさん／豊田森林組合 林 富造・太田係長・山田政和

●学生（25）

三重大学工学部 加藤 鷹・大堂篤士・高畑広輝・皆己貴彦／九州大学 フェンテス・ケンジ／名古屋大学農学部 石松幹子・山本知華・森本龍平／静岡大学農学部 長瀬 亘・鈴木祥太・大木秋緒／名古屋工業大学工学部 小林亮太・福田晃司・村山明宏・大矢知 良・飯田紘子・鍋倉 健哉・宇野芳奈美・小室暁子／岐阜工業高等専門学校 伊藤宏辰・岩田卓也・佐藤宏行・福地貴文・水野亜美・渡邊勇樹

●院生（14）

九州大学大学院人間環境学府 魚住英司・陣内千弘・梅井寛子・徳永孝平／名古屋大学生命農学研究科 大矢彩加・取違俊弥・都築知佳・小川敬多／名古屋大学環境学研究科 藤原由佳梨・光山 茜・朝 ティリ・澤寄祐樹・吉田拓矢・築山ちえ美

以上計 74 名



事前エクスカーション（豊田市足助地区）



山田先生・佐々木先生・小原先生の講義



初日の学生プレゼンテーション



長者町見学



前日の内容を踏まえて、大学ごとにプレゼン内容の修正



末廣先生の講演



網野先生の講演



「都市の木質化」に対する長者町の想い（長者町の方）



学生プレゼンテーション



長者町の住民の方を各グループに交えて意見交換



講評・セミナーのまとめ



11月10～11日 名古屋市長者町「糸びす祭り」にブースを借りて、プレゼン内容の発表・展示

2.4 九州セミナー

■日程・実施場所

平成 25 年 1 月 12 日（土）～13 日（日）

鹿児島県肝属郡肝付町やぶさめ館ほか

■スケジュールと実施概要

<1 日目>

12:00—13:00 集合 ガイダンス 井上先生（大分大学）

◇セミナーの目的・スケジュールの説明のほか、昨年度のセミナーの様子を紹介、木造建築物の紹介などが行われました。

13:20—14:20 座学①

○木材の乾燥技術 藤本先生（九州大学） 13:20—14:20

◇木材の乾燥について、主に木材の変形及び割れの原理や問題点などを中心に説明されました。また、柱材に使うとしたら、大きく割れた柱、または割れていない柱のどちらを使いますか？など問題提起もなされました。さらに、乾燥技術として様々な木材乾燥装置の説明もされました。

○木質材料の製造技術 佐々木幸久氏（山佐木材） 14:20—15:20

◇木の伐採から製材品になるまでの過程を加工写真を加え、詳しく説明されました。さらに、「きらきらドームたるみず」や「奥ものべ紅香橋」の建設過程を説明され、木材の利用拡大の可能性を感じることができました。また、木材利用について木材が担う役割や利用する際の留意点を語られ、最後に木質バイオマスについて語られました。

15:20—15:35 休憩

○国産材流通の現状と課題 原田氏（山佐木材） 15:35—16:35

◇なぜ木造率が低いのか？という問題提起から、現在の森林資源の現状を指摘し、持続可能な森林経営を行うことの重要性を述べられました。また、製材を無駄なく利用するため、「工学的な手法によって強度性能を保証する工程」を経た木質建材を提案し、規格化することで、地域木材の供給体制を整えることができるのではないかと語られていました。

16:35—18:20 ○学生からのワークショッププレゼンテーション

◇九州大学：九大祭での活動、Timberize 九州のコンペ作品について

◇熊本県立大学：中庭ワークショップについて

◇大分大学：Timberize 九州のコンペ作品について

◇名古屋大学：「都市の木質化プロジェクト」の活動内容、学生による都市の木質化の提案について

18:30—20:30 交流会（やぶさめ館）

<2日目>

9:00－11:00 座学②

○CLT を用いた木造新構法 網野先生（法政大学） 9:00－10:00

◇ヨーロッパでは、近年複数の機能が有機的に組み込まれたコンパクト集居が町に溶け込んで存在していることが紹介されました。また、ヨーロッパでは軸組構法やマッシブホルツ構法、スケルトン構法など構法が多様化しており、さらに木+鉄骨、木+RC といった異種材料を組み合わせることにより、材料による区分がすでになくなりつつあることなどが語られました。

○木造建築の耐火防火性能 長谷見先生（早稲田大学） 10:00－11:00

◇火災の一般性状と木造建築の火災性状、防災法令について説明されたうえで、木質耐火構造及び耐火建築物の実現に向けた取り組みや考え方について説明されました。また、2012年に「木造建築基準の高度化推進事業」として行われた木造3階建て学校の実大火災実験の準備実験についても説明されました。

11:15－12:20 山佐木材工場に移動、昼食

12:20－15:30 見学（肝属町内の木造施設等） 協力:山佐木材株式会社

○工場見学

◇工場、CLT 実大音響試験棟の説明 12:20－12:50

◇工場、CLT 実大音響試験棟の見学 12:50－14:40

◇プレカット工場の見学 15:00－15:30

■セミナー参加者（計 51 名）

●受講生 29 名

・九州大学（建築系）6 名

M2: 魚住 英司、フエンテス・ケンジ/M1: 辻 裕太/4 年: 梶井 寛子、徳永 孝平、パンラタナマラ・スシラ

・九州大学（林産系）1 名

4 年: 平野 菜々子

・熊本県立大学 7 名

M1: 佐藤 史織/4 年: 今村 美幸、大鶴 美可子、小原 朋夏、村上 智美/3 年: 桐原 博之、蒔野 友太郎

・大分大学 8 名

4 年: 伊東 和俊、鷹尾 将志/3 年: 野口 雄史、原 麻里子、御沓 里奈、毛利 悠平、柳田有紀子、谷口 隆宏

・鹿児島大学 3 名

2年：朝木 聡一郎、平 知紘／1年：高橋 謙太

・名古屋大学（林産系）4名

M2：都築 知佳、大矢 彩加／M1：小川 敬多、取違 俊弥

●講師（5名）

佐々木 幸久（山佐木材）／藤本 登留（九州大学）／原田 浩司（山佐木材）／網野 禎昭（法政大学）／長谷見 雄二（早稲田大学）

●教員（6名）

末廣 香織（九州大学）／北原 昭男、荒木建一郎（熊本県立大学）／塩屋 晋一（鹿児島大学）、佐々木 康寿、山崎 真理子（名古屋大学）

●事務局等（11名）

井上 正文、田中 圭（大分大学）／飯島 泰男、中村 昇、鎌田 貴久（秋田県立大学）／小野 泰（ものづくり大学）／土屋 潤（福岡大学）／加来照彦、早坂恵美、村山和美（木活協）／前田 和浩（山佐木材）（現地担当）



写真1 ガイダンスの様子①



写真2 ガイダンスの様子②

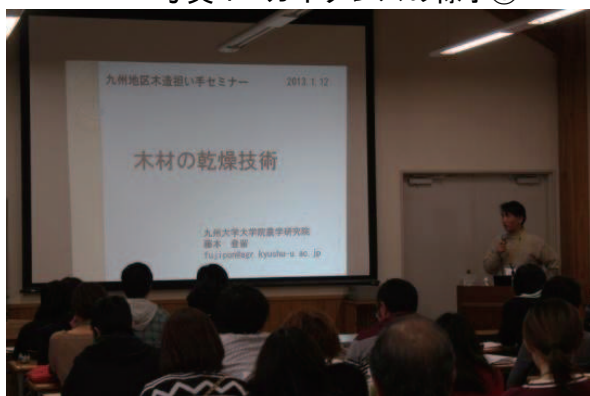


写真3 藤本先生の講演①



写真4 藤本先生の講演②



写真5 佐々木氏の講演①



写真6 佐々木氏の講演②



写真7 原田氏の講演①



写真8 原田氏の講演②



写真 9 九州大学の学生の発表①



写真 10 九州大学の学生の発表②

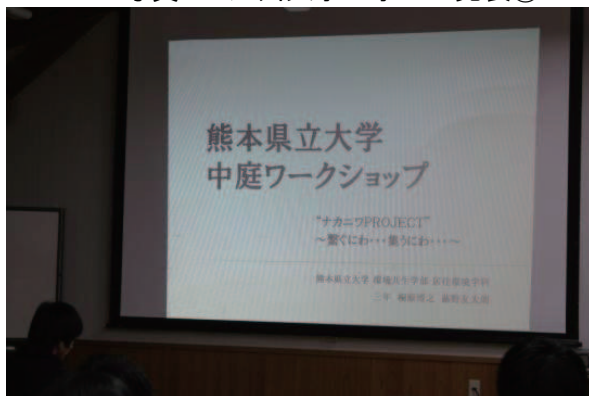


写真 11 熊本県立大学の学生の発表①



写真 12 熊本県立大学の学生の発表②



写真 13 大分大学の学生の発表①

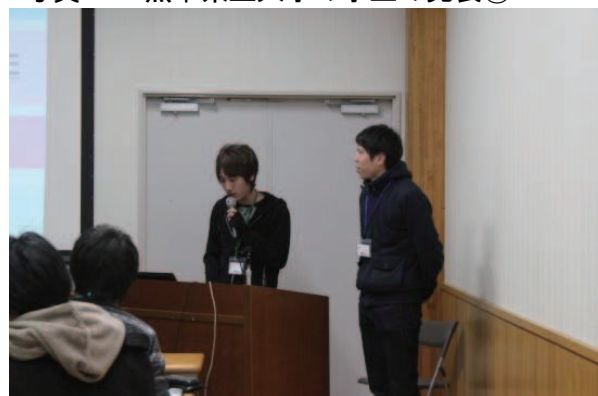


写真 14 大分大学の学生の発表②

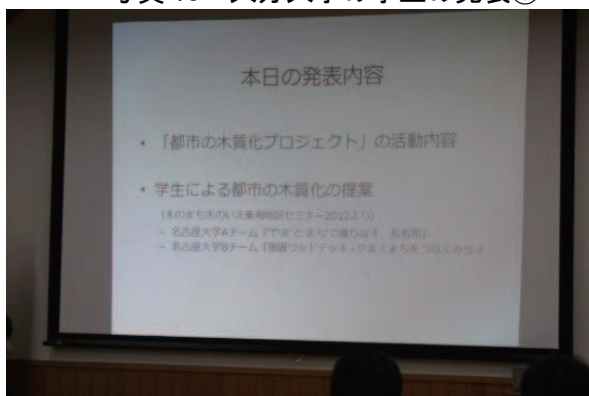


写真 15 名古屋大学の学生の発表①



写真 16 名古屋大学の学生の発表②



写真 17 交流会の様子



写真 18 集合写真



写真 19 網野先生の講演①



写真 20 網野先生の講演②



写真 21 長谷見先生の講演①



写真 22 長谷見先生の講演②



写真 23 工場の説明



写真 24 CLT 実大音響試験棟の説明



写真 25 工場見学①



写真 26 工場見学②



写真 27 CLT 実大音響試験棟見学①



写真 28 CLT 実大音響試験棟見学②



写真 29 プレカット工場見学①



写真 30 プレカット工場見学②



写真 31 プレカット工場見学③



写真 32 プレカット工場見学④

3. アンケート集計結果

各セミナー時に学生を対象としたアンケートの集計結果を示す。

■総回収数と分類

なお、九州セミナーに出席した九州大学院生のうち 2 名は海外からの留学生

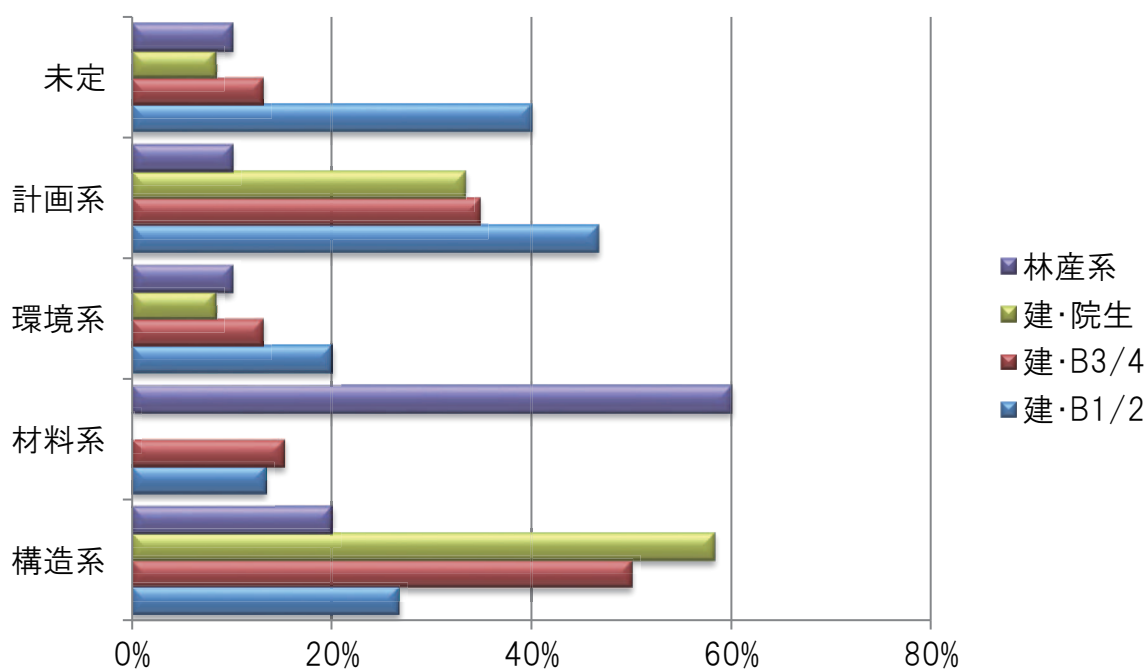
セミナー	計	大学	学年別			性別		計
			B1/2	B3/4	院生	男性	女性	
東北	33	秋田県立大	4	5	－	8	1	9
		日本大	4	12	－	10	6	16
		八戸工大	4	3	1	7	1	8
北陸	6	金沢工大	－	2	－	0	2	2
		信州大	－	－	3	3	0	3
		富山大	－	1	－	1	0	1
東海	23	九州大	－	2	2	2	2	4
		名古屋大	－	5	4	3	6	9
		三重大	－	2	－	2	0	2
		名古屋大・農	－	3	3	3	3	6
		静岡大・農	－	－	2	2	0	2
九州	29	鹿児島大	3	－	－	3	0	3
		大分大	－	8	－	5	3	8
		九州大	－	2	4	4	2	6
		熊本県立大	－	6	1	2	5	7
		名古屋大・農	－	－	4	2	2	4
		九州大・農	－	1	－	0	1	1
計	91		15	52	24	57	34	91
うち過去の参加歴あり			7	19	11	－	－	－

以上の回答を林産系と建築系に、さらに建築系を学年別に分類し、このうち設問 1～7 については、東海セミナー参加の九州大学学生および九州セミナーに参加の名古屋大学学生の回答を二重回答と考えて削除したうえで集計した。

それらの結果を以下に示す。

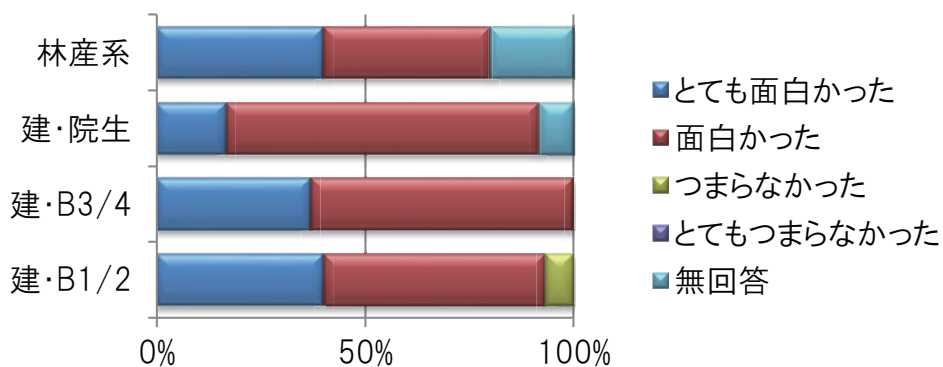
■設問 1：専攻は何ですか（希望も含む・複数回答可）

	建・B1/2	建・B3/4	建・院生	林産系
回答数	15	46	12	10
構造系	26.7%	50.0%	58.3%	20.0%
材料系	13.3%	15.2%	0.0%	60.0%
環境系	20.0%	13.0%	8.3%	10.0%
計画系	46.7%	34.8%	33.3%	10.0%
未定	40.0%	13.0%	8.3%	10.0%



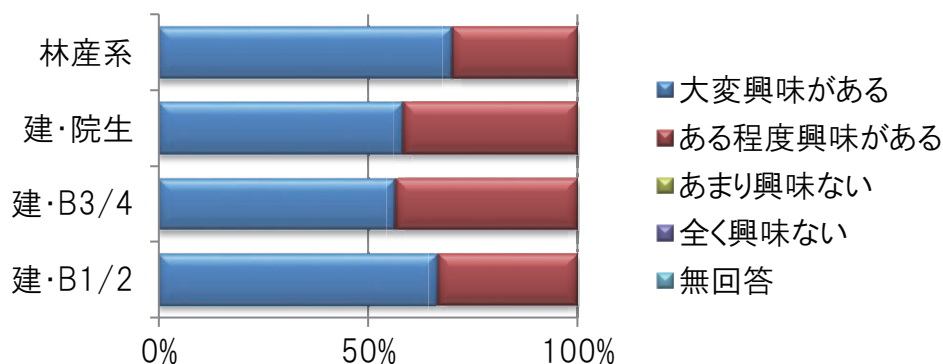
■設問 2：このセミナーに参加してどのように感じましたか？

	建・B1/2	建・B3/4	建・院生	林産系
N	15	46	12	10
とても面白かった	40.0%	37.0%	16.7%	40.0%
面白かった	53.3%	63.0%	75.0%	40.0%
つまらなかった	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
とてもつまらなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	8.3%	20.0%



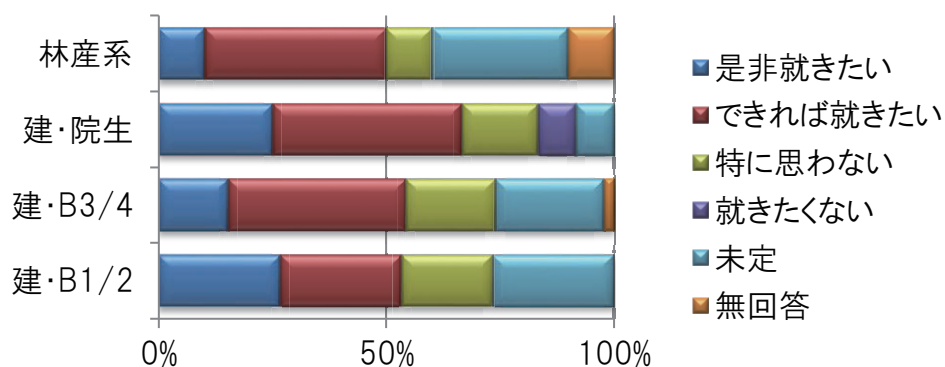
■設問 3：木造建築に興味がありますか？

	建・B1/2	建・B3/4	建・院生	林産系
N	15	46	12	10
大変興味がある	66.7%	56.5%	58.3%	70.0%
ある程度興味がある	33.3%	43.5%	41.7%	30.0%
あまり興味ない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全く興味ない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



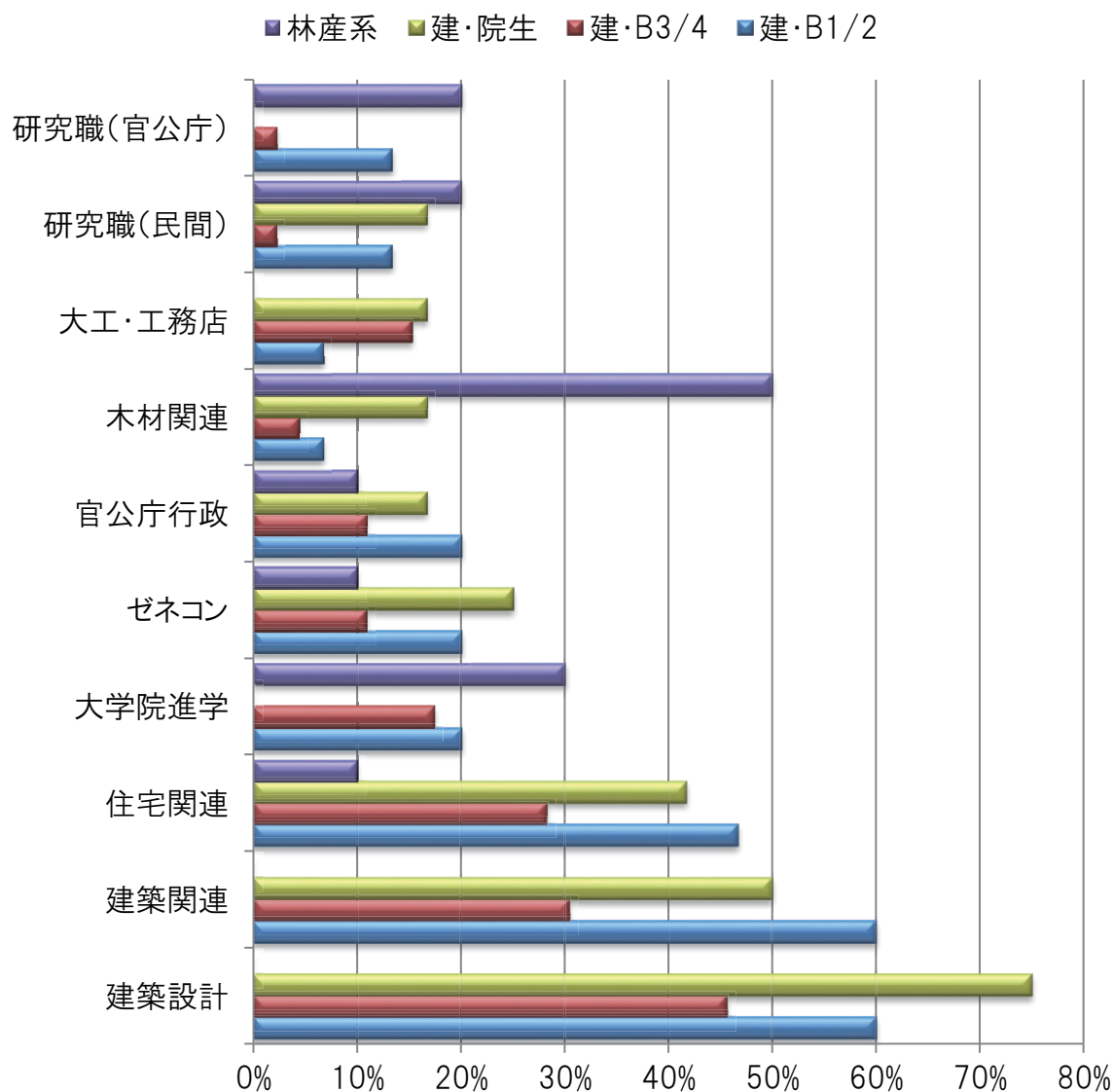
■設問 4：木造建築に関わる仕事に就きたいと思いますか？（現時点での希望）

	建・B1/2	建・B3/4	建・院生	林産系
N	15	46	12	10
是非就きたい	26.7%	15.2%	25.0%	10.0%
できれば就きたい	26.7%	39.1%	41.7%	40.0%
特に思わない	20.0%	19.6%	16.7%	10.0%
就きたくない	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%
未定	26.7%	23.9%	8.3%	30.0%
無回答	0.0%	2.2%	0.0%	10.0%



■設問 5：現在あなたが希望している就職先（職種）は？（複数回答可）

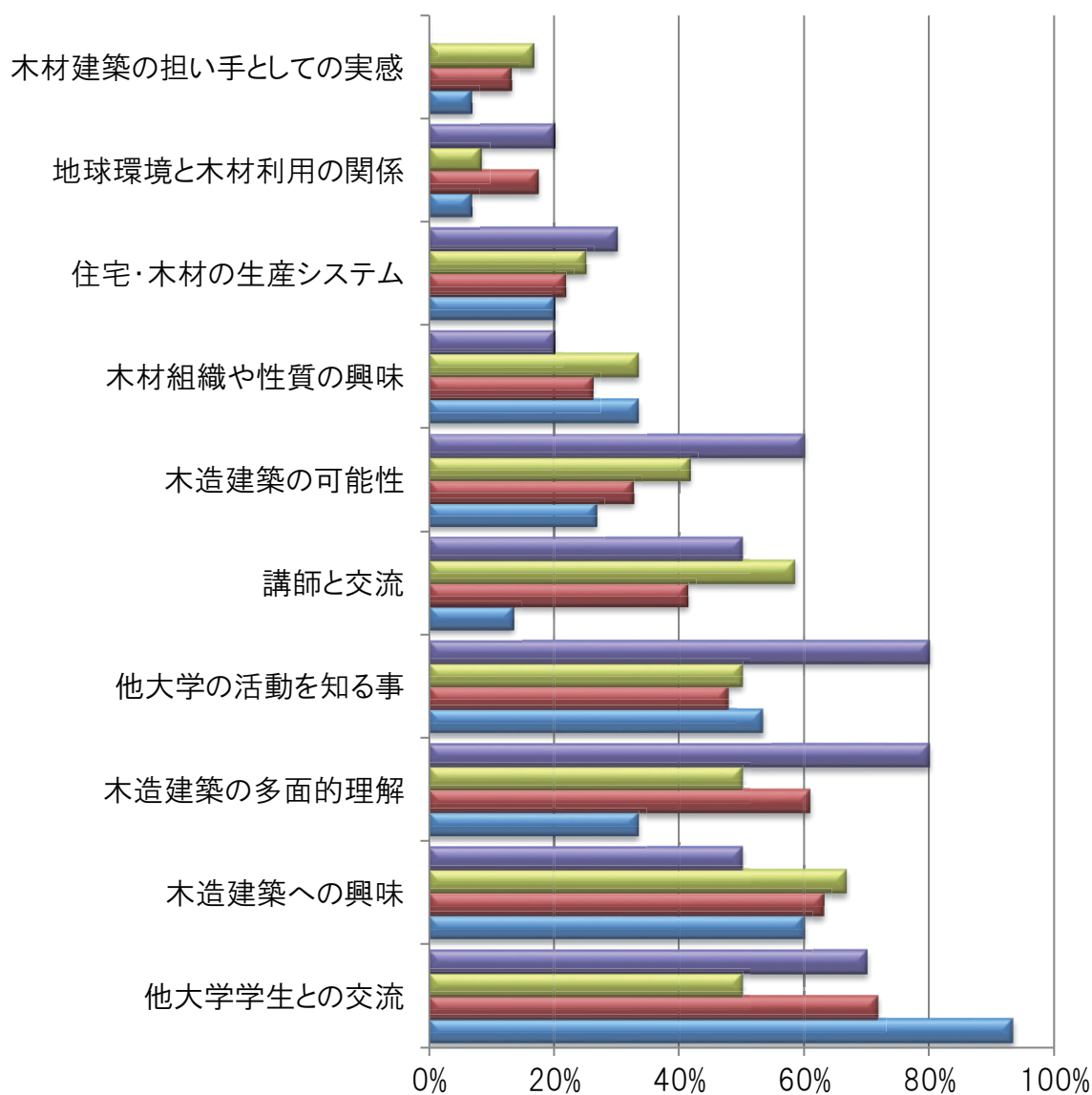
	建・B1/2	建・B3/4	建・院生	林産系
N	15	46	12	10
建築設計	60.0%	45.7%	75.0%	0.0%
建築関連	60.0%	30.4%	50.0%	0.0%
住宅関連	46.7%	28.3%	41.7%	10.0%
大学院進学	20.0%	17.4%	0.0%	30.0%
ゼネコン	20.0%	10.9%	25.0%	10.0%
官公庁行政	20.0%	10.9%	16.7%	10.0%
木材関連	6.7%	4.3%	16.7%	50.0%
大工・工務店	6.7%	15.2%	16.7%	0.0%
研究職（民間）	13.3%	2.2%	16.7%	20.0%
研究職（官公庁）	13.3%	2.2%	0.0%	20.0%
営業（金融）	6.7%	0.0%	0.0%	10.0%
教員（工業高校）	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%
大学教員	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%
未定	13.3%	2.2%	8.3%	20.0%



■設問 6：このセミナーで得たものは？（複数回答可）

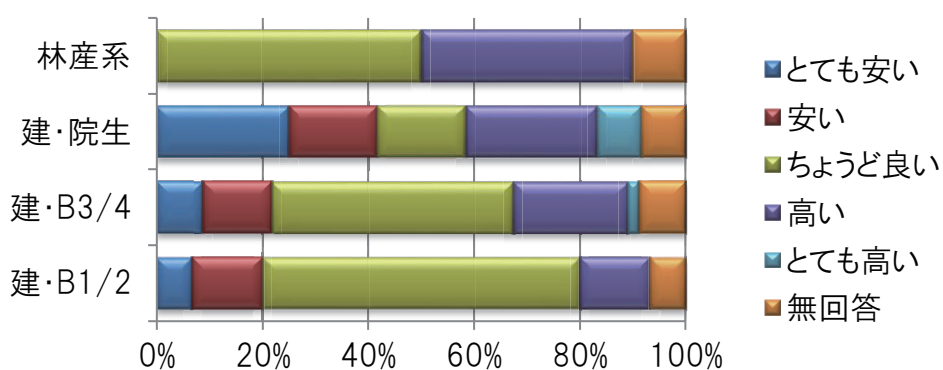
	建・B1/2	建・B3/4	建・院生	林産系
N	15	46	12	10
他大学学生との交流	93.3%	71.7%	50.0%	70.0%
木造建築への興味	60.0%	63.0%	66.7%	50.0%
木造建築の多面的理解	33.3%	60.9%	50.0%	80.0%
他大学の活動を知る事	53.3%	47.8%	50.0%	80.0%
講師と交流	13.3%	41.3%	58.3%	50.0%
木造建築の可能性	26.7%	32.6%	41.7%	60.0%
木材組織や性質の興味	33.3%	26.1%	33.3%	20.0%
住宅・木材の生産システム	20.0%	21.7%	25.0%	30.0%
地球環境と木材利用の関係	6.7%	17.4%	8.3%	20.0%
木材建築担い手の実感	6.7%	13.0%	16.7%	0.0%
その他	20.0%	0.0%	8.3%	10.0%

■林産系 ■建・院生 ■建・B3/4 ■建・B1/2



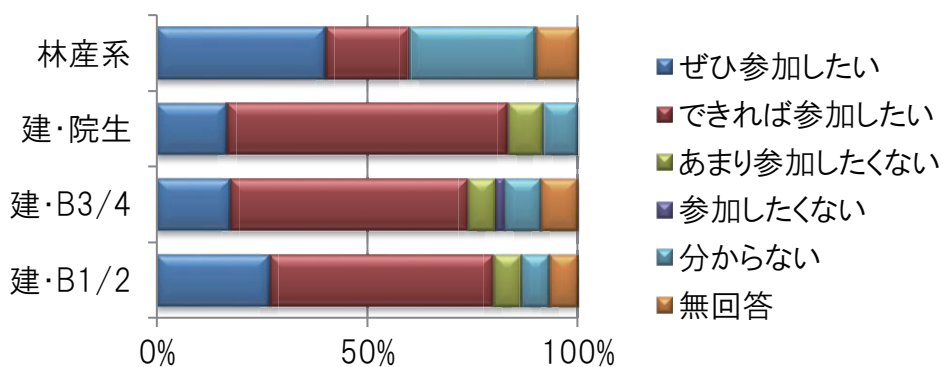
■設問 7：セミナー参加費についてはどう感じましたか？

	建・B1/2	建・B3/4	建・院生	林産系
N	15	46	12	10
とても安い	6.7%	8.7%	25.0%	0.0%
安い	13.3%	13.0%	16.7%	0.0%
ちょうど良い	60.0%	45.7%	16.7%	50.0%
高い	13.3%	21.7%	25.0%	40.0%
とても高い	0.0%	2.2%	8.3%	0.0%
無回答	6.7%	8.7%	8.3%	10.0%



■設問 8：今後も同様のセミナーがあれば参加したいですか？

	建・B1/2	建・B3/4	建・院生	林産系
N	15	46	12	10
ぜひ参加したい	26.7%	17.4%	16.7%	40.0%
できれば参加したい	53.3%	56.5%	66.7%	20.0%
あまり参加したくない	6.7%	6.5%	8.3%	0.0%
参加したくない	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%
分からない	6.7%	8.7%	8.3%	30.0%
無回答	6.7%	8.7%	0.0%	10.0%



自由記述項目（2012 年度分のみ）

■「設問 6：このセミナーで得たものは？」で追加記載内容

- ・東北：やってはいけないことがわかった(2) / 自身のコミュニケーション不足を感じた
- ・九州：材木を入手するということの時間的長さを考えると、今よりも効率的な生産・流通ルートをシステムとして作るべきなのだろうと考えた

■どのテーマに興味を持ちましたか？

- ・東北：地元の木を使った活用方法 / 木造の建築 / 木材の生産サイクル / 木造ダム・木橋(5) / 芳賀沼さんの建築の話 / 木材の利用 / 大工の実践講習(2) / 木材と木材生産、木材の利用、木材を含めた木の環境サイクル / 基礎(2) / 木材の加工、森林の保全 / 林業見学・林業体験(5) / 木材という一つの材でどんなものが出来るのかということ / 木造住宅 / 木材加工の過程 / 大工さんの実演指導
- ・東海：木造建築デザインの可能性(5) / ヨーロッパの木造建築(3) / 古建築の改修法 / 非戸建木造に見る集約と多様性(3) → ヨーロッパにおける木造に対する認識の違いを感じることができた / 持続可能な森林管理 / 古材の強度評価と古民家の耐震評価 / 古材の研究 / 建築科の方々のプレゼン / 都市計画について興味を持った / プランを立てることに持っている以上の時間がかかることを知り、人によって様々なものになっていくことが興味深かった / 木造とそれ以外のハイブリット工法 / 都市との関わり方、木造建築のあり方 / ヨーロッパの木造建築の背景について / コミュニティスペース / 網野先生の講演内容 / loin shearing / ヨーロッパの都市、建築、中世の思想が活きているということ（歴史と都市との関係）、繋がりを感じられた / 学生プレゼン / 講義 4、欧州における木質都市、コンパクト化された公共施設
- ・北陸：工学と経験学 / 木のサイクル / 林先生の炭素の話 / 五重塔の心柱
- ・九州：CLT を用いた木造新工法(11) / 学校の火災実験・防耐火性能(8) / 木材の乾燥技術 (5) / 国産材流通の現状と課題(5) / 網野先生の話(5) / 集成材(2) / 公共建築物の木造化(2) / 他大学の活動・発表(2) / 木質バイオマス / ヨーロッパ木造建築(4) / 今後の日本の木造の問題点が見えました / 木質材料の製造技術(2)

■このセミナーに望むこと（順不同）

- ・東北：大学の授業では学べないこと / しっかりとした計画を練って望みたい / 木質構造の可能性とその意義 / 自分の価値観、世界観、建築観などを広げる / 外部の人（先生や実務に携わっている人など）と繋がりを持つ / 教養を深める / プランニング / 技術向上の訓練(3) / 3 大学の交流（チームワーク）(5) / 製作期間にもう少し余裕を持てるようにしてください / 簡単な作品も製作したい / 時間的に辛い / 製作物のクオリティー / 木

造の可能性の広さについて知りたい／計画／木造建築の可能性、先、未来／より木材の可能性を広げ、これからの自分の力や知能として色々なものを身につけたい／木造建築に関する技術と知識の習得／建築に関する知識の向上／自分達の作業との関連性／木材についての興味を上げる／サマースクールの中で夜遅くまで講義が入っていると体力的、スケジュール的に厳しいと思ったので、その事を考慮して欲しい／これからの木造の可能性を教えて欲しい

・東海：今まで RC でやってきたことを木でできないか／木の温かみをこの長者町とのリンクのさせ方など／林業という部分から建築まで横断的に捉えて、それぞれの専門分野を超え、共通の話ができるようになること／長者町の方々との親密な繋がりがあって非常に良いと思いました（幅が生まれる）／他分野との関わり／木材・木の建築への利用への可能性／建築に関しての理解を深める／建築を専門とする方々の木材への理解を知る／自分の専門に関連したものを学ぶ／運営、管理／他分野との交流、視野を広げること／農・工の交流をセミナー内で行う（懇談会のような場ではなく、きちんと時間をとる）／このセミナーが全国の学生に向けて長期的に継続していくこと・小規模であらゆる場所で／スケジュールをもう少し詳しく具体的に伝えてほしい／木や山について学べないこと／知識を得ること／他学科、他分野の人と交流する／発表会のタイムキーパーは必ず必要（2 分前、1 分前、タイムリミットまでベルを鳴らすのが欲しい）／参加者だけでなく聴講者をもっと集めるように宣伝の努力をされると良い（開催場所に対して人数が不釣り合いでさびしく感じた）。良いセミナーなので勿体無い／今回同様、木造に重きを置いて積極的に活動している方の面白い講演プログラムを続けて欲しい。日本だけでなく、できれば海外にも視野を広げて／時間管理／他大学との交流／山側：木材の利用のされ方と知る／使用箇所、町側：木材生産の現場を知る・植樹、手入れ、伐採、運搬、加工／他大学との交流／川上側と川下側がお互いについて知り合うこと、繋がること。／木材の活用法について考えること／ディスカッションする時間も設けていただきたい／最終日に飲み会をやってほしい

・北陸：工場見学がしてみたい／暗い、広い木造について勉強する／木造について知ること／今後の自分の人生において、重要な経験となる

・九州：学生への広い呼びかけ／討論会／呑みの席で無茶振りのない雰囲気／木についてより学ぶために、実際に木に触れるような学習を取り入れて欲しい／木のあり方環境についても話を聞きたい／座学だけではなく、見学などもあってよいと思います／もう少し休憩が欲しかった／CLT を用いた木造新工法。木材の可能性や、今後のことを学生に伝えて、そのことを頭において、興味を持ってもらうこと／視野を広げること／人とのつながり／もう少し休憩が欲しかったです／大学の講義にない講演／大学間の交流／他大学との交流／木材の新しい可能性、現状／英訳・国際講義があればよいと思う／も

う少し交通の便の良い所でのセミナー／今年で2回目なのですが、年ごとにレクチャーの内容を変えてほしいです／林業の話を聞きたいです（国産材がとれにくい状況の打開など）／木材の新しい可能性／もう少し踏み込んだ内容にして頂ければと思います／木材を利用している現場（工事、新築等）の見学／もう少し自由行動の時間があるといいと思う／もっと多くの九州中の学生とも交流を深めたいので、参加大学を増やしてほしい／見学が楽しかったのもっと時間をとってほしい／毎年続けてほしい／他大学の学生との交流や講義を通じて、新しい知識を得ることができる／大分大学は他大学との交流がほぼないので、参加される学生を増やしてほしい。そして他大学のプレゼンを聞いて刺激をうけたい。／各地域、大学での取り組みを知る／木材利用を積極的に行っている企業の取り組みを知る／木によるものづくりの体験、手を動かすもの／他の分野との交流（考え方、違いを把握）／実際に行われた活動の過程を写真で解説してほしい／海外など遠いところの建築例を紹介してほしい

■知っている「木」の名前を書いてください

1)スギ 77、2)ヒノキ 71、3)マツ 68、4)サクラ 31、5)モミジ・カエデ 20、6)ブナ 17、7)ケヤキ 16、8)クリ 15、9)ヒバ、イチョウ 15、以下、ベイマツ 13、キリ、クスノキ 12、ウメ 8、タケ、ナラ、カシ 6

4.3 年間の総括と木質構造教育プログラムの構築について

4.1 初年度提案時の計画

本事業は2010年度に開始され、本年度は3年度目にあたる。

初年度の提案書では、全体構想として、

『これからの各地域での「木のまち・木のいえづくり」を推進するには、各地域の気候風土、文化および材料事情を認識するとともに、森林・木材・建築のそれぞれの領域全体に対する基本的な知識と情報を持ち、最近の社会に氾濫するさまざまな木材関連情報を仕分ける判断力を持った人材の育成が重要である。

上記の達成には「森林・木材・建築」のすべてを見渡せる人材養成のための教育プログラムが求められるところであるが、大学においては工学系および森林・木材などの農学系に分離され、さらに現行カリキュラム上の制約からこうした取り組みが十分ではない状態が続いている。

他方、実務家に対してこれまでいくつか行われてきた人材育成事例の多くは、各地域の中核実務家向けの短期間の中央発信・建築主導・全国共通型が多く、各地域の気候風土、文化および材料事情を踏まえた教育とは言えない側面があった。』

また、大学教育の現状に関しては、

『しかし、大学等における「木のいえづくり」教育は必ずしも十分とは言えない。たとえば「木造建築士」の受験資格を有する4年制大学は全国で186、うち工学部建築系が約60%、その他が家政・デザイン系・農学系である。このうち、建築学会大会の木質構造・材料等の木材関連発表大学数は45、「木質構造」と称されたカリキュラムを有する大学数は41であるが、中にはごく最近、木質構造教育の取り組みを開始したと思われる大学も少なくない。

さらに「木質材料」に特化した教育カリキュラムは農学系教員を有する5大学（東大農・日大生物・富山大芸文・静岡大農・島根大総合理工）を除いて設定されておらず、その他の大学では一般の「建築材料」の中で触れられているに過ぎない。

こうしたことから、学生が木造住宅・木質構造に興味を持ち、研究を進めようとしても、建築用木質系材料に関する正確な情報が提供できる、優れた市販教科書も少ないこともあって、その特異性・特殊性を考慮した的確な助言ができる教員が十分ではない。そして、木質系材料に関する基礎知識の欠如によって、社会に氾濫する木材関連情報の仕分力の乏しい、あるいは誤った知識を吸収したと思われる建築学科卒業生も多いのが実情である。

また実際に建築に携わっている若者には大学以外の工業高校・短大・高専等の卒業生も多い。彼らの場合、技術力はともかく、知識教育基盤は大学以上に不足していること

も予想される。したがって、こうした人材に対するフォローも併せて考えなければならない。

しかし、森林・木材系大学では建築の一般的素養に関する教育体制が十分ではなく、さらに、森林・木材系の現場実務者の中には、全く異なった分野からの参入も多いため、用途を意識した森林生産物の流通や製品生産についての認識が不足したまま社会に送り出されているケースが多い。』

との認識の下で、

『地域リーダー育成のため、「森林・木材・建築」の専門領域が連携し、建築系・農学系相互の意見交流の場を持った教育プログラムを構築する。』

と提案した。

4.2 3年間の活動の概要

3年間の活動の総括を表4.1～4に示す。

初年度は手探り状態であり参加大学および学生数は初年度 5 大学 5 学部 32 名であったが、2 年度目以降は参加地域も拡大し、座学に加え、様々な見学会、グループ討議、ワークショップ、学生によるプレゼンテーションなど多彩な内容を盛り込んだ。また、東北では「木匠塾」の一環として位置づけ、大工さん指導の下に木造加工技術の実践を行った。参加大学および学生数は2 年度 19 大学 20 学部 125 名、3 年度 14 大学 16 学部 130 名であった。

参加した大学等および講演された方々は以下の各氏である（敬称略）。

●大学

建築系(19)：秋田県立大・日本大工学部・八戸工大・信州大・金沢工大・富山大・福井大・金沢大・東京大・三重大・名古屋大・名古屋工大・岐阜工専・岐阜森林文化アカデミー・九州大・熊本県立大・大分大・佐賀大・鹿児島大

林産系(4)：岩手大・名古屋大・静岡大・九州大

●講演者（大学等）

関野 登（岩手大）／内田信平（岩手県大）／高田克彦・中村 昇・飯島泰男・板垣直行・佐々木貴信（以上、秋田県大）／立花 敏（筑波大）／林 知行（森林総研）／網野禎昭（法政大）／長谷見雄二（早稲田大学）／腰原幹雄（東京大）／秦 正徳・堀江秀夫（以上、富山大）／池本敏和（金沢大）／後藤正美（金沢工業大）／石川浩一郎（福井大）／五十田 博（信州大）／安村 基（静岡大）／富田守泰・小原勝彦・辻 充孝（以上、岐阜県立森林文化アカデミー）／佐々木康寿・山田容三（以上、名古屋大）／末廣香織・藤本登留（九州大）／平瀬有人（佐賀大）／北原昭男（熊本県立大）／井

上正文（大分大）

●講演者（実務家）

篠木 肇（篠木建築・構造設計事務所）／木曾善元（木曾善元建築工房）／芳賀沼 整氏（はりゅうウッドスタジオ）／加来照彦（現代計画）／佐々木幸久・原田浩司（以上、山佐木材）

表 4.1 セミナー概要（2010 年度）

地域	東北	北陸	東海	九州
開催地	秋田県能代市	-	-	大分県日田市
日程	2011/2/19～20	-	-	2011/1/29～30
座学	●木材の商流（筑波大・立花） ●木材の組織構造（秋田県大・高田） ●木材の材質（秋田県大・中村） ●内装に木材を使った場合の人体の生理応答（秋田県大・板垣/木村） ●木造建築を建てる場合の注意点（岩手県大・内田）	-	-	●木造住宅の耐震補強（大分大・井上） ●木質構造の構造設計（熊本県大・北原） ●木材利用と地球環境（秋田県大・飯島） ●木材を生かした建築設計（九州大・末廣） ●木造住宅の設計（現代計画・加来）
見学・討議等	●見学会：集成材工場（ハイテクウッド）	-	-	●学生からのワークショッププレゼンテーション ●見学会：大分県農水研究指導セ林業研究部/木造施設等/豆田地区（伝建地区）
学生等参加者	●秋田県大 7、岩手大（農）2、計 9 ●学年：学部 3 年 5、同 4 年 2、修士 2 年 2 ●性別：男 7、女 2	-	-	●熊本県大 7、九州大 4、大分大 10、計 21 ●学年：修士 2 年 1、同 1 年 82、学部 4 年 6、同 3 年 4、研究生 2 ●性別：男 11、女 10

表 4.2 セミナー概要 (2011 年度)

地域	東北	北陸	東海	九州
開催地	秋田県仙北市角館	石川県加賀市	岐阜県美濃市	大分県日田市
日程	2011/9/3～5	2011/9/25～26	2011/10/29～30	2011/12/10～11
座学	●森林と木材資源の現状（岩大・関野） ●木材の材料特性と建築利用（秋田県大・飯島） ●木造建築の世界（秋田県大・板垣・土屋） ●地域の木材を活用した木造住宅の設計（設計事務所・木曽）	●基調講演（富山大・秦/現代計画・加来） ●日本の木材事情（富大・堀江） ●木造建物の建設過程の震動特性（金大・池本） ●耐震設計の現状（信大・五十田） ●木構造と積雪（福井大・石川）	●身近な材料のグレーディング（岐阜ア・富田） ●森と街をつなぐ木遣い計画—都市の木質化から—（名大・佐々木） ●欧州の木質構造（静大・安村） ●森林文化アカデミー—自力建設から木造建築病理学まで（岐阜ア・辻）	●木材利用と地球環境（秋田県大・飯島） ●木質構造の構造設計（秋田県大・中村） ●ヨーロッパの木造建築（法政大・網野） ●木を生かした建築（佐賀大・平瀬）
見学・討議等	●木造加工技術の実践	●グループ討議：日本の木材・木造建築について（大学教育に期待すること） ●参加者のプレゼン（グループ討議の内容について）及びディスカッション	●見学会：道の駅「美濃にわか茶屋」/保育園「森山学園」/東濃ひのき製品流通協組（グレーディング、バイオマス発電施設） ●ワークショップ：部材断面はどうして決める（岐阜ア・小原、辻、富田）	●学生からのワークショッププレゼンテーション ●見学会：天瀬高鶴間伐未着手現場/天瀬北平間伐終了現場/武内製材所/木材市場（ナンプ木材流通）/建築現場 刀連町（ゆきいち）公民館
学生等参加者	●秋田県大 8、日本大 16、八戸工大 3、計 27 ●学年：学部 1 年 8、同 2 年 12、同 3 年 5、同 4 年 2 ●性別：男 21、女 6 ※以上はアンケート回収の状況、「木匠塾」としての 9/3～5 の参加者は約 50 名	●東京大 1、金沢工大 6 - 信州大 6、福井大 2、富山大 2、金沢大 1、計 18 ●学年：修士 2 年 5、同 1 年 9、学部 4 年 3、研究生 1 ●性別：男 12、女 6	●三重大 4、名大 2、名大(農)5、静大(農)5、名工大 1、岐阜工専 1、岐阜ア 6、社会人 3、計 27 ●学年(大学のみ)：博士 3 年 1、修士 2 年 3、同 1 年 4、学部 4 年 9 ●性別(大学のみ)：男 12、女 6	●佐賀大 5、熊本県大 7、九州大 6、大分大 9、計 27 ●学年：修士 2 年 2、修士 1 年 2、学部 4 年 12、学部 3 年 9、研究生 2 ●性別：男 13、女 14

表 4.3 セミナー概要 (2012 年度)

地域	東北	北陸	東海	九州
開催地	秋田県仙北市角館	富山県富山市	愛知県名古屋市ほか	鹿児島県肝付町
日程	2012/8/24～27	2013/1/11～12	2012/9/16～18、 11/10～11	2013/1/12～13
座学	●地域の木材の有効活用（秋田県大・佐々木） ●地域の木材を活用した木造住宅の設計（はりゅうウッドスタジオ・芳賀沼）	●富山の伝統的木造住宅の木材利用と理想循環系（富山大・秦） ●林業の現状（富山大・堀） ●太古の時代から培われてきた木造の技術（金沢工大・後藤） ●ほかの地域でのセミナーなど（信州大・五十田） ●今さら人には聞けない木のはなし（森林総研・林） ●伝統木造と現代木造（東京大・腰原）	●リレー講義（名古屋大・山田・佐々木/岐阜大・小原/九州大・末廣/法政大・網野） ●「都市の木質化」に対する長者町の想い（長者町の方）	●木材の乾燥技術（九州大・藤本） ●木質材料の製造技術（山佐木材・佐々木） ●国産材流通の現状と課題（山佐木材・原田） ●CLT を用いた木造新構法（法政大・網野） ●木造建築の耐火防火性能（早稲田大・長谷見）
見学・討議等	●グループ討議：地域における木材活用について ●見学会：有限会社門脇木材 ●木造加工技術の実践	●学生が取り組んでいる研究のプレゼンテーション（4 課題） ●参加者によるディスカッション：木材・木質構造を始めたきっかけ、木材・木質構造に期待すること。就職のこと。木造で実現される建築。木造建築と構造解析についてなど ●見学会：とやまスローライフ・フィールド街並み、職藝学院見学並びに職藝学院の学生たちと意見交換会	●事前エクスカーシオン：豊田市足助地区 ●名古屋市長者町見学会 ●学生プレゼンテーション（8 グループ）	●学生からのワークショッププレゼンテーション（九州大学、熊本県立大学、大分大学） ●見学会：山佐木材工場、肝属町内の木造施設等
学生等参加者	●秋田県大 24、日本大 18、八戸工大 12、計 54 ●学年：修士 1 年 1、学部 4 年 6、同 3 年 31、同 2 年 7、同 1 年 9 ●性別：男 4、女 12	●金沢工大 2、信州大 5、富山大 3、計 10 ●学年：修士 1 年 5、学部 4 年 3、卒業生 2 ●性別：男 9、女 1	●三重大 4、名古屋大 6、名古屋大（農）7、静岡大（農）3、名古屋工大 8、岐阜工専 6、九州大 5、計 39 ●学年：修士 14、学部 25 ●性別：男 24、女 15	●熊本県大 7、九州大 6、大分大 8、鹿児島大 3、九州大（農）1、名古屋大（農）4、計 29 ●学年：修士 2 年 4、同 1 年 4、学部 4 年 10、同 3 年 8、同 2 年 2、同 1 年 1 ●性別：男 18、女 11

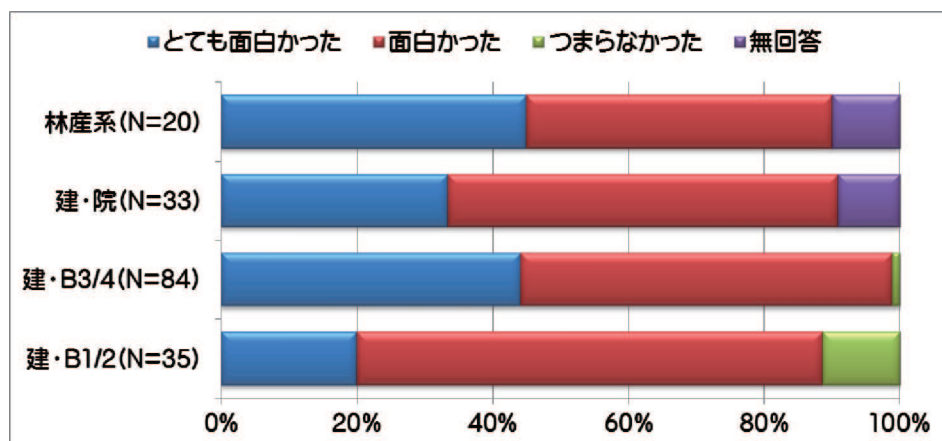
表 4.4 参加大学と学生数

セミナー	系	大学	開催年度		
			2010 年度	2011 年度	2012 年度
東北	建築系	秋田県立大	9	22	24
		日本大	－	21	18
		八戸工大	－	13	12
	林産系	岩手大	2	－	－
	計		11	56	54
北陸	建築系	信州大	－	6	5
		金沢工大	－	6	2
		富山大	－	2	1
		福井大	－	2	－
		金沢大	－	1	－
		東京大	－	1	－
	計		－	18	8
東海	建築系	三重大	－	4	4
		名古屋大	－	2	6
		名古屋工大	－	1	8
		岐阜工専	－	1	6
		岐阜森林文化アカデミー	－	6	－
		九州大	－	－	5
	林産系	名古屋大	－	5	7
		静岡大	－	5	3
	計		－	20	39
九州	建築系	九州大	4	6	6
		熊本県立大	7	7	7
		大分大	10	9	8
		佐賀大	－	5	－
		鹿児島大	－	－	3
	林産系	九州大	－	－	1
		名古屋大	－	－	4
	計		21	27	29
系別計	建築系		30	115	115
	林産系		2	10	15
総 計			32	125	130

4.3 学生の反応とセミナーの効果

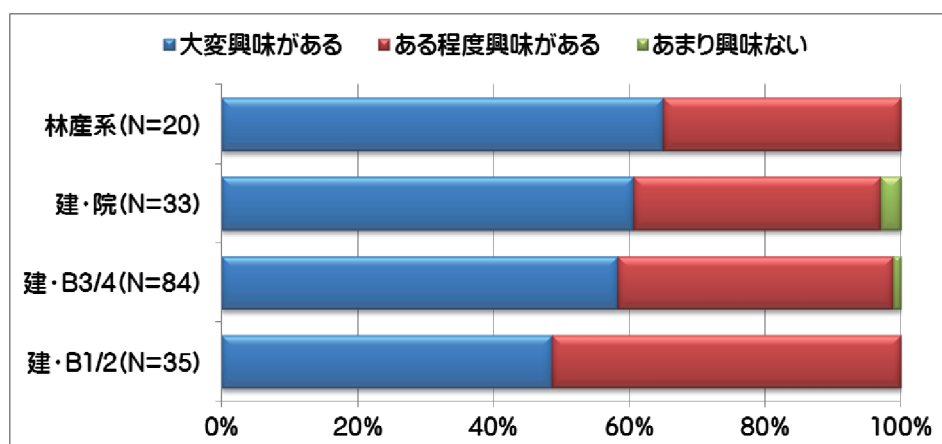
教育プログラムに対する受講学生の反応と効果をアンケートによって分析した。このアンケート結果は 2・3 年目では大きな差がなかったためこれらをプールし、第 3 章同様、回答を林産系と建築系に、さらに建築系を学年別に分類して集計した。

■設問 2：このセミナーに参加してどのように感じましたか？



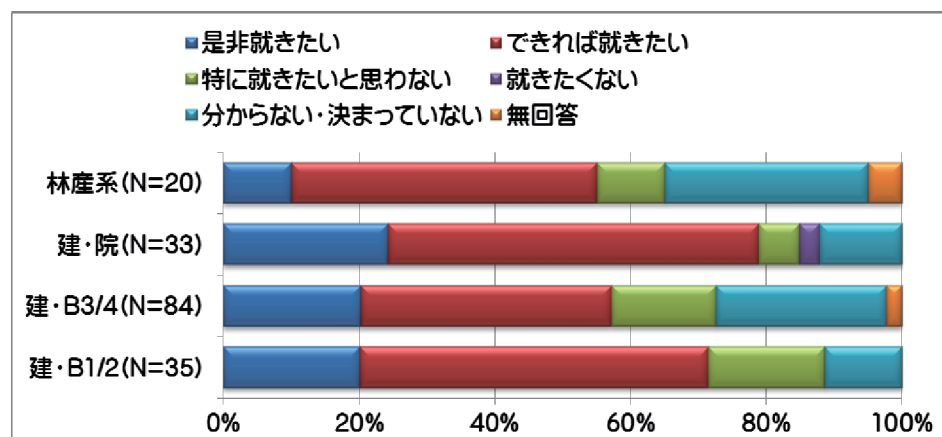
「とても面白かった」「面白かった」が各区分とも 90%以上。

■設問 3：木造建築に興味がありますか？



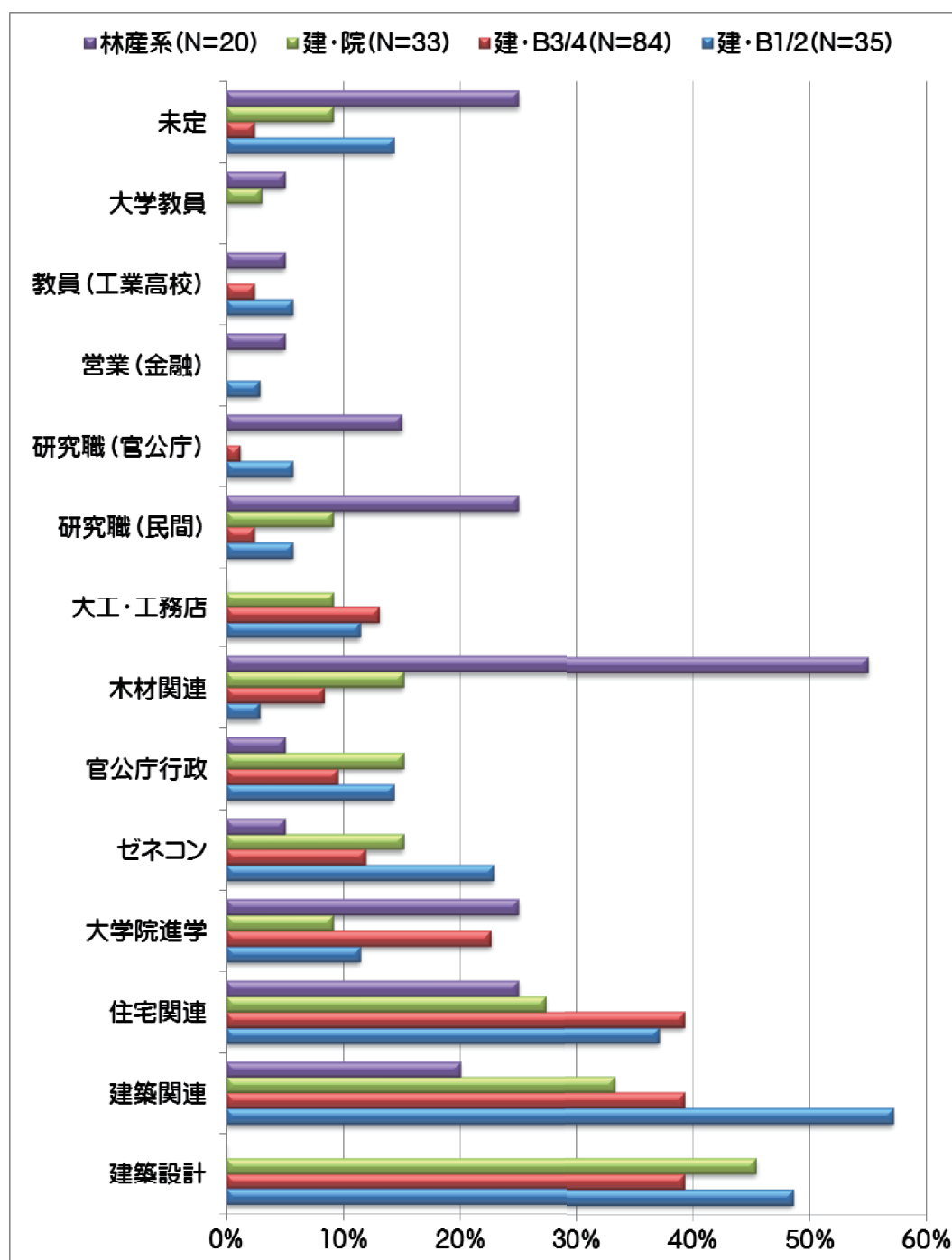
「大変あり」「ややあり」が各区分ともほぼ 100%。

■設問 4：木造建築に関わる仕事に就きたいと思いますか？（現時点での希望）



「是非就きたい」「できれば就きたい」が各区分とも高いが、就職間近の 3～4 年生と林産系の未定率がやや高いのは興味深い。

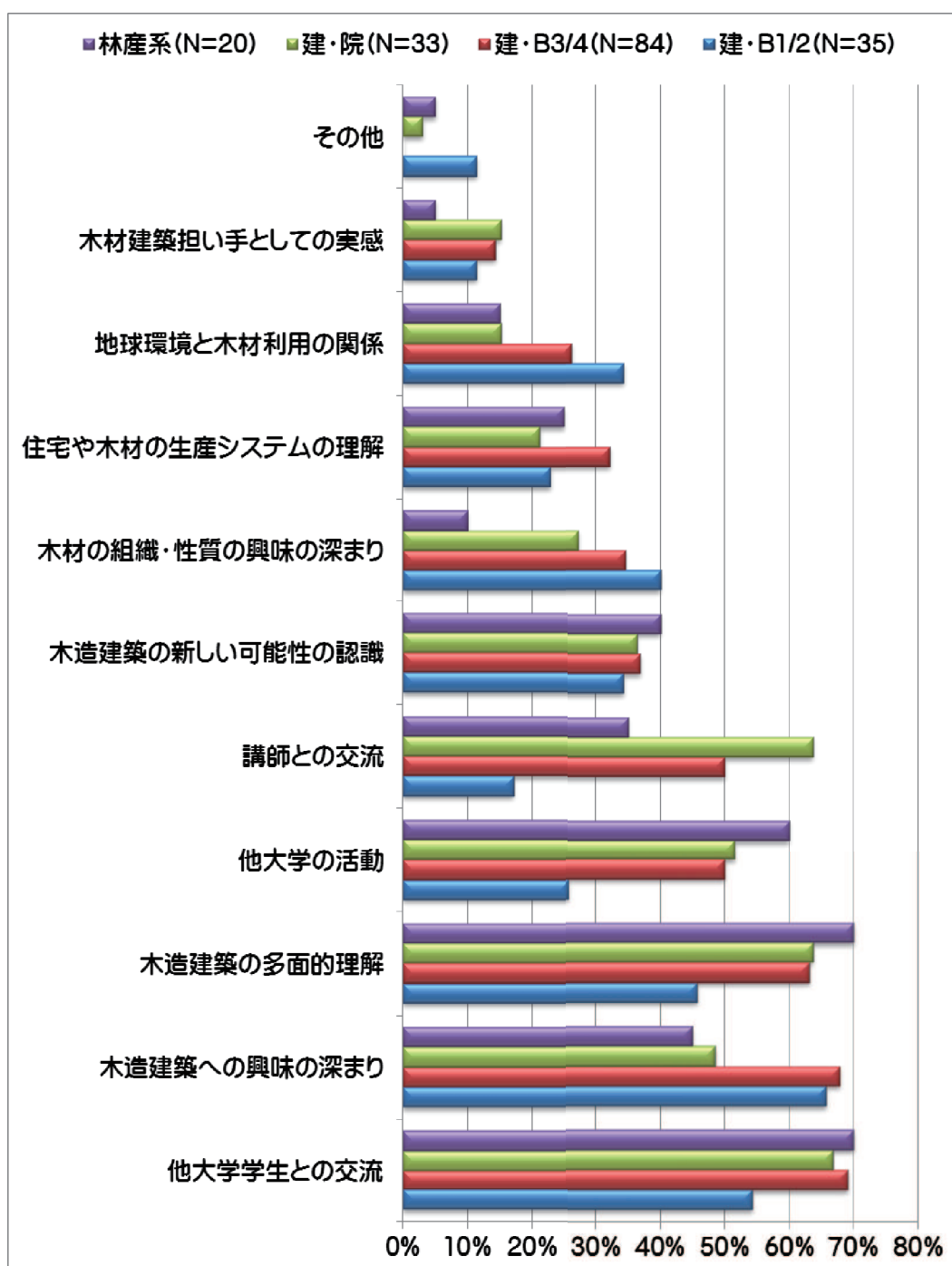
■設問 5：現在あなたが希望している就職先（職種）は？（複数回答可）



区分ごと希望順位(10%を超えた上位の職種のみ)

	建・B1/2(N=35)		建・B3/4(N=84)		建・院(N=33)		林産系(N=20)	
1	建築関連	57.1%	住宅関連/ 建築関連/ 建築設計	39.3%	建築設計	45.5%	木材関連	55.0%
2	建築設計	48.6%			建築関連	33.3%	住宅関連/ 大学院進学/ 研究職(民間)/ 未定	25.0%
3	住宅関連	37.1%			住宅関連	27.3%		
4	ゼネコン	22.9%	大学院進学	22.6%	ゼネコン/ 官公庁行政/ 木材関連	15.2%	建築関連	20.0%
5	官公庁行政/ 未定	14.3%	大工・工務店	13.1%			研究職(官公庁)	15.0%
6			ゼネコン	11.9%				
7	大学院進学/ 大工・工務店	11.4%						
8								

■設問 6：このセミナーで得たものは？（複数回答可）



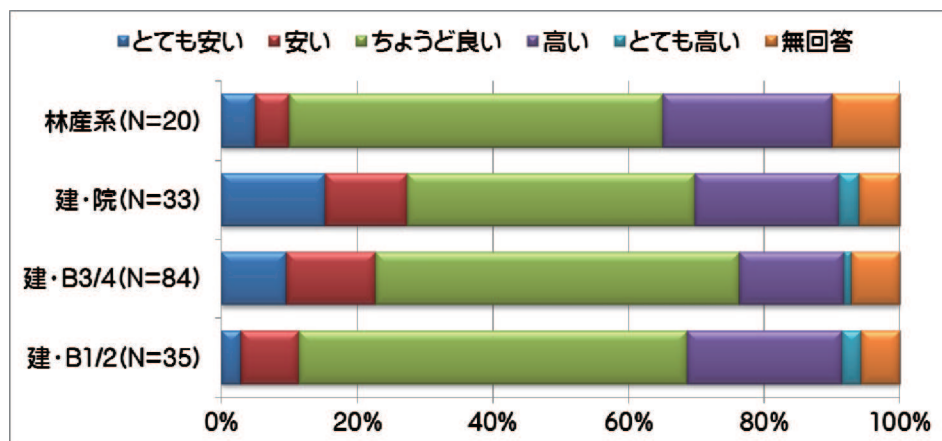
区分ごと順位(上位 5 項目のみ)

	建・B1/2 (N=35)		建・B3/4 (N=84)		建・院 (N=33)		林産系 (N=22)	
1	木造建築への興味	65.7%	他大学生との交流	69.0%	他大学生との交流	66.7%	他大学生との交流	70.0%
2	他大学生との交流	54.3%	木造建築への興味	67.9%	講師との交流	63.6%	木造の多面的理解	70.0%
3	木造の多面的理解	45.7%	木造の多面的理解	63.1%	木造の多面的理解	63.6%	他大学の活動	60.0%
4	木材への興味	40.0%	他大学の活動	50.0%	他大学の活動	51.5%	木造建築への興味	45.0%
5	木造建築の可能性/ 環境と木材利用	34.3%	講師との交流	50.0%	木造建築への興味	48.5%	木造建築の可能性	40.0%

区分によってやや異なりが見受けられるが「他大学の学生との交流」「木造建築の多面的理解」「木

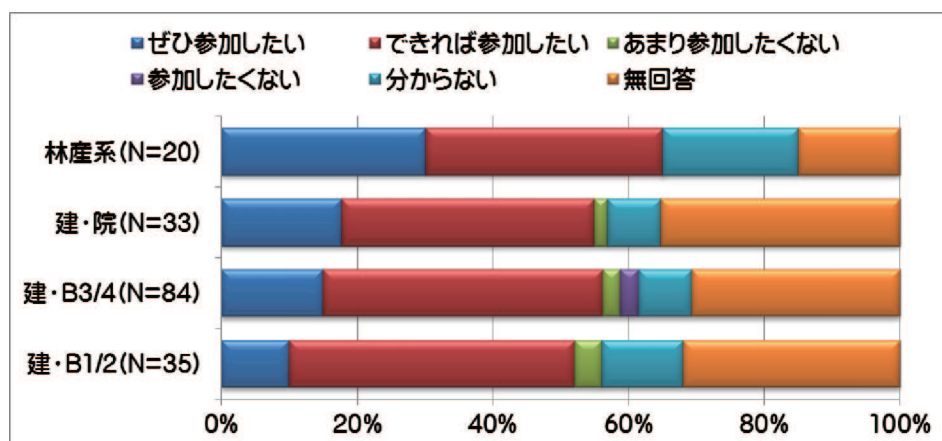
造建築への興味の深まり」がすべての区分で上位に入っている。建築3/4年生、院生では「講師との交流」「他大学の活動を知ることができた」との回答率も高い。建築1～2年生ではおそらく初めて聞く内容と思われる「木材の組織や性質への興味」「地球環境と木材利用の関係」も高い

■設問7：セミナー参加費についてはどう感じましたか？



約 2/3 があまり「高い」とは感じていない。

■設問8：今後も同様のセミナーがあれば参加したいですか？



「ぜひ参加したい」「できれば参加したい」併せるといずれの区分とも過半数を占める。

■アンケートの総括

以上のアンケート結果から以下のことが分かる。

1) 今回の試行セミナーは総括的にいって学生側にはきわめて好評で、講師・他大学との交流についても成果があったといえる。今後の参加希望度もかなり高く、企画意図であった「工農にまたがる大学間の連携のきっかけの形成」はおおむね達成できた。

2) とくに2年度目に試行的に行ったグループディスカッションや学生プレゼンテーションのような学生参加型の取組が有効であることが分かったため、3年度目にはこれを拡大した取組を全地域で行った。学生には大変だったようであるが、好評であった。

3) セミナーのプログラムおよび参加学生層は開催地区ごとに多様であったため、とくに興味を持ったテーマ等は地区ごとにやや異なった傾向があるが、各地区とも新しい知識や木造建築の可能性を感じさせるテーマが好評であった。

4.4 総括と今後の課題

本事業では木造建築において目指す担い手像を、

- ①各地域の気候風土、文化、材料事情を認識できる
- ②森林・木材・建築それぞれに対する基本的知識と情報をもつ
- ③様々な木材関連情報を仕分ける判断力がある

とし、対象を将来、木のいえづくり推進の中核を担う、大学等で木造住宅・建築を学ぶ人たちを主眼に行った。

この背景としては、現在の＜工学部・建築系＞の大学が、一級建築士の受験資格を教科の基本としており、

①今後の木造に対する社会ニーズに応じていくためには、木造教育がおぼつかない大学への訴えかけが重要。

②根本的に解消していくには、段階的に木造・木材関連の教科を増やしていく必要があるが困難。

③将来的には、カリキュラム編成を変えられる仕組みづくり（単位互換制も含む）が必要となってくるが、現実的な打開策として、現行の教科構成に並行する形で、まずは、工・農にまたがる大学間連携による木造・木材教育の試行を推進してみる。また、同時にそれを教えられる教員の養成・教員間のコラボレーションも不可欠。

といった背景がある。

本プログラムはこうした現状を具体的に把握し、大学間連携が有効な手段であるかどうか、まずその検証を行うために試行的に行ったものである。

そこで以上の視点から今回の取り組みの総括と今後の課題をまとめる。

●工・農にまたがる大学間連携

木材の「川上から川下まで」を伝えるため、木材・木質構造を「材料、構法、構造、環境、意匠、計画」の様々な系から多面的に捉えることが必要と考え、単に建築系の学生に川上・川中の現状を知らしめることに留まらず、建築系・林産系の学生が学生時代からその連携を意識できるような取り組みを進めた。

結果として、参加学生のうち林産系の占める割合は10%程度であったが、とくに今年度の東海地区では、林産系、建築系学生の交流（事前準備で交流のあったグループでは、研究でも学生間の意見交換が見られる）がきわめてよい結果を生んでいるように、それぞれの専門性が活かされるような事前の仕掛けが必要と思われる。

●「一過的・受動的」から「継続的・能動的」なセミナーへ

教育プログラムをすべて教員がお膳立てするような仕組みでは、今後長続きしない可

能性が高い。きっかけは教員側が与えるにしても、たとえば、東北セミナーのように学生組織が中心となって「事前準備→セミナー本番→事後まとめ」を企画・運営する仕組みが必要である。また、テーマを予め明確にすることも望まれる。

東海セミナーの例では、名古屋市内での木材利用の推進を検討している「長者町」から、多大な協力を受けることができ、セミナーではより具体的かつシビアに施主としての指導を受けた。これによって、街に対しても、学生セミナーの開催は街の意識改革・活性化につながった。また、具体的な現場を想定した設計課題を出したことにより、学生はイメージが持ちやすくなり、事前準備に対して一歩踏み込んだ取り組みが可能となった。

九州セミナーでも地域内大学および名古屋大学の活動事例が多く報告され、お互い、大いに刺激し合うことができている。

●大学における単位化の問題

3年度目の提案時において担い手事業アドバイザーから「大学教育という点からみて、カリキュラムや単位互換など大学当局に対する提案や文部科学省などへのアプローチなども視野に入れるべきではないか」との指摘があった。これに対し「提案者らの論点も同じである。大学当局へのアプローチは、演習科目で担当は学生が所属する大学の教員が責任教員ということなら単位化は十分可能であるため、各地域でその実現可能性を検討しているところである。参加する大学間で情報交換の場を設けたい。」と回答したが、現状では十分に詰められていない。

幹事会では、

- ・単位認定には、教員が賛同しても、学部や大学が認めるか、大学間の単位互換協定の有無等の検討事項が多々ある。

- ・本活動のキャリアパスでの取扱いはい？企業がそれをどう捉えるか。インターンシップとして認められる等、インターンシップ化して行くことも考えられ、単位認定よりも実現性が高い。しかし、セミナーの内容とインターンシップでは意味合いが異なるのではないか。

- ・木造のファンを増やす、興味を持ってもらうのが当初の趣旨。単位認定となると、大学のしがらみが出てくるし、学問となると今の内容では難しいのでは。

- ・学生のモチベーションが下がっている現状を理解してもらい、このセミナーの意味を文科省に認めてもらうにはもっと多様な話を盛り込む必要がある。木造の話だけでは足りないのではないか。

- ・地方大学では、すべての専門の教員がいることはない、いくつかの分野を教えなければならない現状は当たりまえ。

・近年は授業コマ数を減らす方向性が強くなる一方で、レベルをあげてさらにコマを増やして教えるのは難しいのではないか。その様な状況で、気軽に「他大学で受講できる」という制度は良い（単位互換制度等）。ただ東京、名古屋などの都市圏ではできるかもしれないが、他地域では難しいのでは。

など、多様な意見が出されている。

加来アドバイザーからは「これまでの取り組みで指摘された、大学間の連携の在り方・単位互換制度の方向性を探りたい。（3年間の成果を文科省・高等教育課等に説明し、そのような制度についての検討を促したい考え）」との意見が出されており、今後の事業の展開を見ながら、さらに検討を進めていく必要がある。

●教育プログラム・教育システムについて

推奨シラバス作成、提案についてはあまり進まなかった。これは対象とする学生やその知識量が明確でないことも原因。その結果どこまで、どの程度を教えるのかが決定できない。

幹事会で出た意見としては、

・現状では工業高校の教科書などはしっかりしている。木造に関して、高卒と大卒のレベルに大きな差があり、大卒で急に高度になり、範囲が割とはっきりしている S、RC 造の基本を教えるのとは異なる。

- ・建築学科のカリキュラムは一級建築士受験資格の範囲に拘束されてしまう。
- ・一級建築士の試験問題と絡めることも考えられるが、そうすると面白味に欠ける。
- ・地方大学では、すべての専門の教員がいることはない、いくつかの分野を教えなければならない現状は当たりまえ。→孤立している先生や大学をつなげる必要がある。

・新しく木造をやりたいけどやり方がわからない、という先生も多い、そんな先生を巻き込みたい。

・文科省の生涯教育課で行う、小中学校の教育で、地元の機関が出前で授業をするというものがある。そういう場も活用できないだろうか。

・建築学会との連携は考えられないか。→木造だけ取り上げるのは難しい、共通の教育プログラムが必要ではないか。

・教育システム（の改革）に絡んで様々な材料について木造をスタートとして検討することはできるのではないか。

・3年間の取り組みで「カリキュラムが形成された」というよりもさらに改良、検討が必要ではないか。

などがあり、これについても検討課題として積み残された。

ただ、3年間に集積された講演内容が膨大であり、これを再編集するだけでも貴重な

最新版テキストに成りうる状況にある。

●今後の展開

加来アドバイザーから、今後の展開について、「今後もこの方式（セミナー）を続けるのか、助成の形式は変わるので、新たに研究助成の獲得を目指したい。それを踏まえて、来年度にこれまでの成果報告とキックオフ的なシンポジウムの開催など、成果報告の形も検討が必要（木造に関して、全国で数か所など）。」とコメントがされている。

しかし、いずれにしろこれまでの事業でつちかった情報は多大であり、この公開＋共有の取組を進めることがまず重要である。

また、民間団体からの支援の検討も念頭に置くべきであろう。この場合、建築系のみならず、木材系や木材加工機械系の団体から支援が受けられる可能性も皆無ではなく、この場合、カリキュラムの見直しも考えなければならない。

なお、実施にあたっては、開催地域、募集地域範囲をどうするか、などのほかに、例えば、春休みスタート（第1部：基礎勉強、課題説明）→前期期間（学生取り組み期間、中間指導）→夏休み（第2部：成果発表）といった方式も考えられる。

文科省等も含めた関連事業への応募や事業継続のためには何らかの組織の立ち上げが必要となる場合も想定される。